

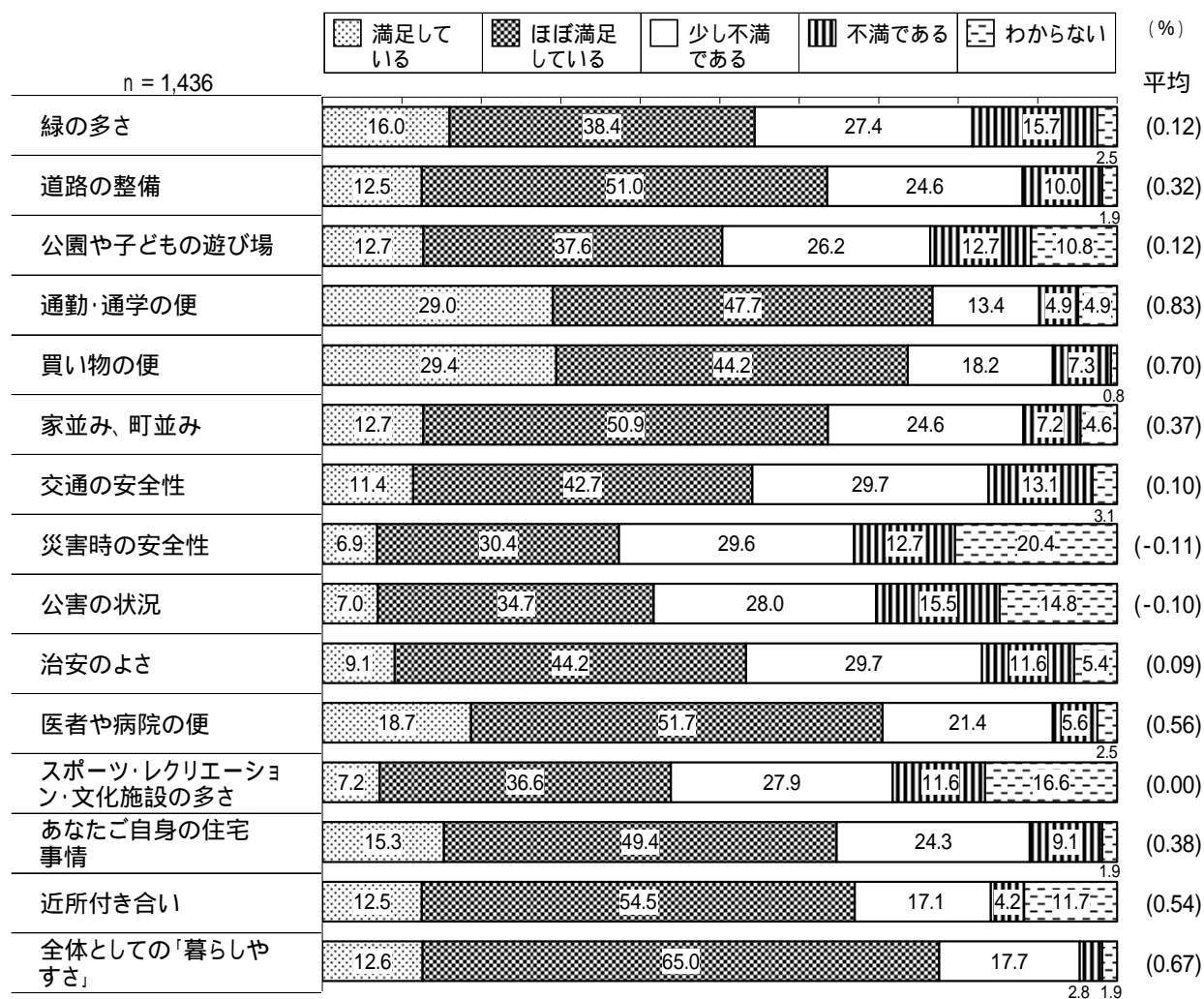
2. 生涯を安心・元気に暮らせるまちづくり

(1) 生活環境の満足度

(全員の方向)

問3. あなたは、お住まいの地域の生活環境について、どの程度満足していますか。

(各々1つ)



- ・全体でみると、総合満足度といえる〈全体としての「暮らしやすさ」〉については、「満足している」(12.6%)と「ほぼ満足している」(65.0%)を合わせた『満足(計)』(77.6%)が8割近くとなっている。個別の14項目についてみると、『満足(計)』は、〈通勤・通学の便〉が8割近くと最も高く、〈買い物の便〉と〈医者や病院の便〉が7割を超えている。「少し不満である」と「不満である」を合わせた『不満(計)』は、〈公害の状況〉、〈緑の多さ〉、〈交通の安全性〉、〈災害時の安全性〉、〈治安のよさ〉で4割を超えている。

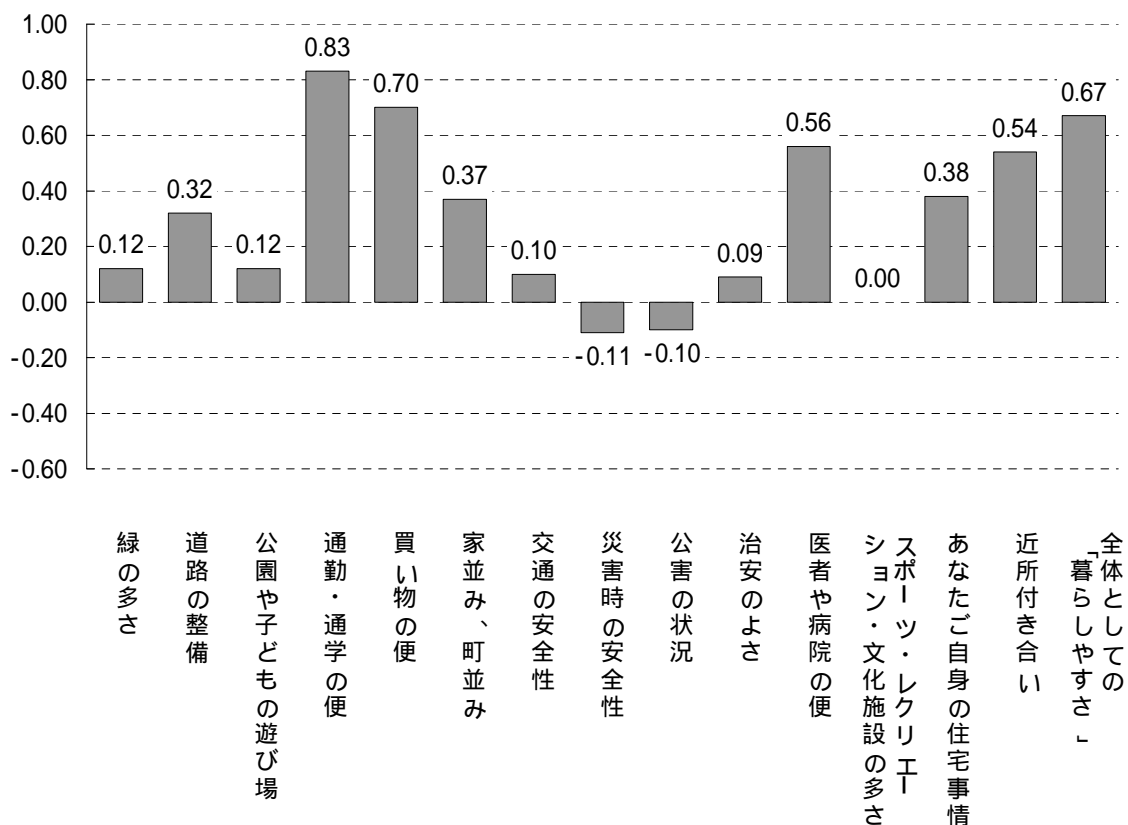
15項目にわたる生活環境評価の比較をしやすいするため、それぞれの評価を点数化し、下記の計算式で各項目の評価点を求めた。

$$\text{評価点} = \frac{\text{「満足している」} \times 2 + \text{「ほぼ満足している」} \times 1 + \text{「少し不満である」} \times (-1) + \text{「不満である」} \times (-2)}{\text{回答者数}}$$

この計算によると、評価点は-2.00から+2.00の間に分布し、0.00が中間値で、+2.00に近いほど評価が高く、-2.00に近いほど評価が低いことになる。また、「わからない」は計算から除外した。

15項目の生活環境評価を評価点で見ると、個別の14項目のうち評価が高いのは、＜通勤・通学の便＞（0.83）、＜買い物の便＞（0.70）、＜医者や病院の便＞（0.56）、＜近所付き合い＞（0.54）などの順となっている。一方、評価が低いのは、＜災害時の安全性＞（-0.11）、＜公害の状況＞（-0.10）、＜スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ＞（0.00）などの順となっている。

[生活環境の満足度（評価点）]

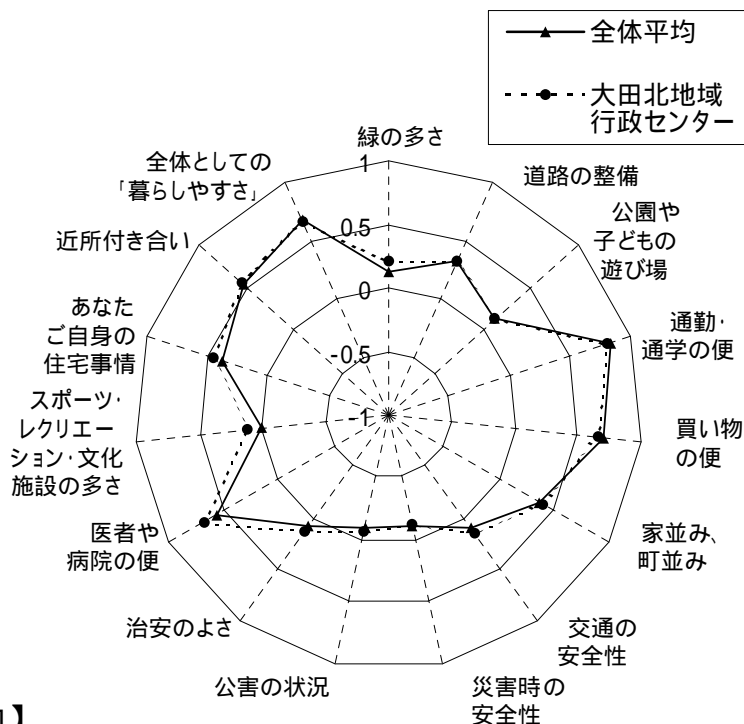


以下、生活環境評価の評価点を地域行政センター管内別にみる。各管内ごとに、全体平均と比べて評価の高いベスト3の項目と、評価の低いワースト3の項目を表に掲げた。

【大田北地域行政センター管内】

	1 位		2 位		3 位	
ベスト3	医者や病院の便	0.12	スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ	0.11	緑の多さ	0.09
ワースト3	買い物の便	-0.04	通勤・通学の便	-0.03	災害時の安全性	-0.01

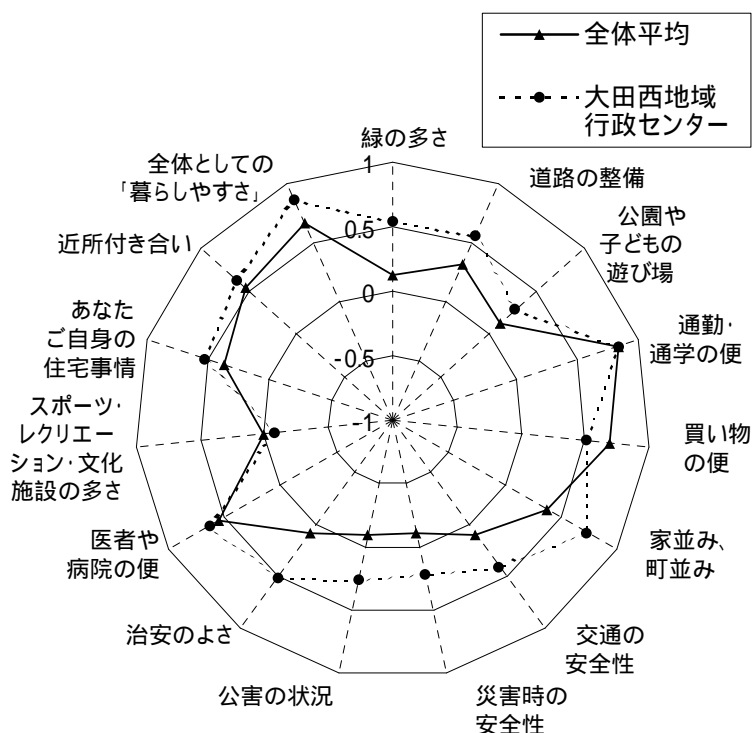
・他の管内に比べ、全体平均と大きな差がある項目は少ない。全体平均との比較では、＜買い物の便＞が0.04ポイント、＜通勤・通学の便＞が0.03ポイント、＜災害時の安全性＞が0.01ポイント下回っている。



【大田西地域行政センター管内】

	1 位		2 位		3 位	
ベスト3	緑の多さ	0.42	治安のよさ	0.42	公害の状況	0.37
ワースト3	買い物の便	-0.18	スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ	-0.08	通勤・通学の便	0.02

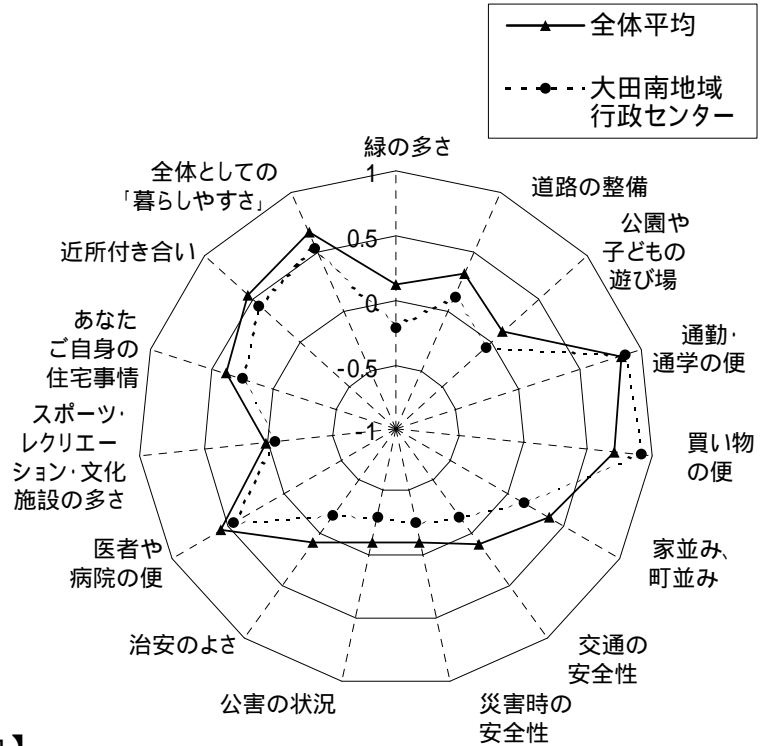
・全体平均よりも評価の高い項目が多く、特に評価が高いのは＜緑の多さ＞、＜治安のよさ＞、＜公害の状況＞、＜家並み、町並み＞、＜災害時の安全性＞、＜交通の安全性＞の6項目で、全体平均を0.3~0.4ポイント程度上回っている。一方、＜買い物の便＞は全体平均より0.18ポイント下回っている。



【大田南地域行政センター管内】

	1 位	2 位	3 位
ベスト3	買い物の便 0.21	通勤・通学の便 0.05	スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ -0.06
ワースト3	緑の多さ -0.33	治安のよさ -0.27	交通の安全性 -0.26

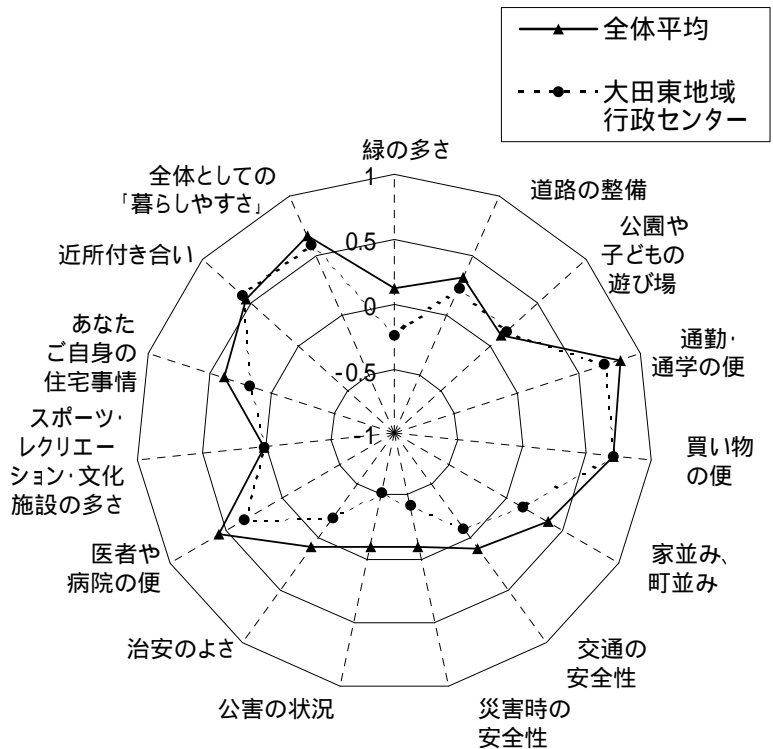
- ・ <買い物の便>で0.21ポイント、<通勤・通学の便>で0.05ポイント全体平均より上回っているが、他の項目は全て全体平均を下回っている。



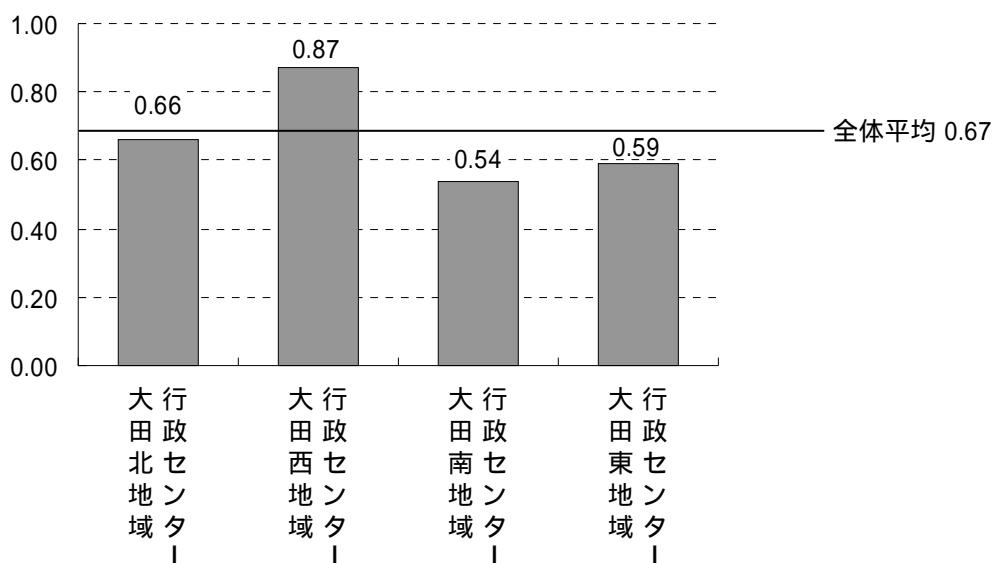
【大田東地域行政センター管内】

	1 位	2 位	3 位
ベスト3	近所付き合い 0.04	公園や子どもの遊び場 0.04	スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ 0.01
ワースト3	公害の状況 -0.42	緑の多さ -0.36	災害時の安全性 -0.31

- ・ 全体平均よりも評価の低い項目が多く、特に<公害の状況>、<緑の多さ>、<災害時の安全性>の3項目で全体平均を0.3~0.4ポイント程度下回っている。



[生活環境の満足度（全体としての「暮らしやすさ」） - 地域行政センター管内別]



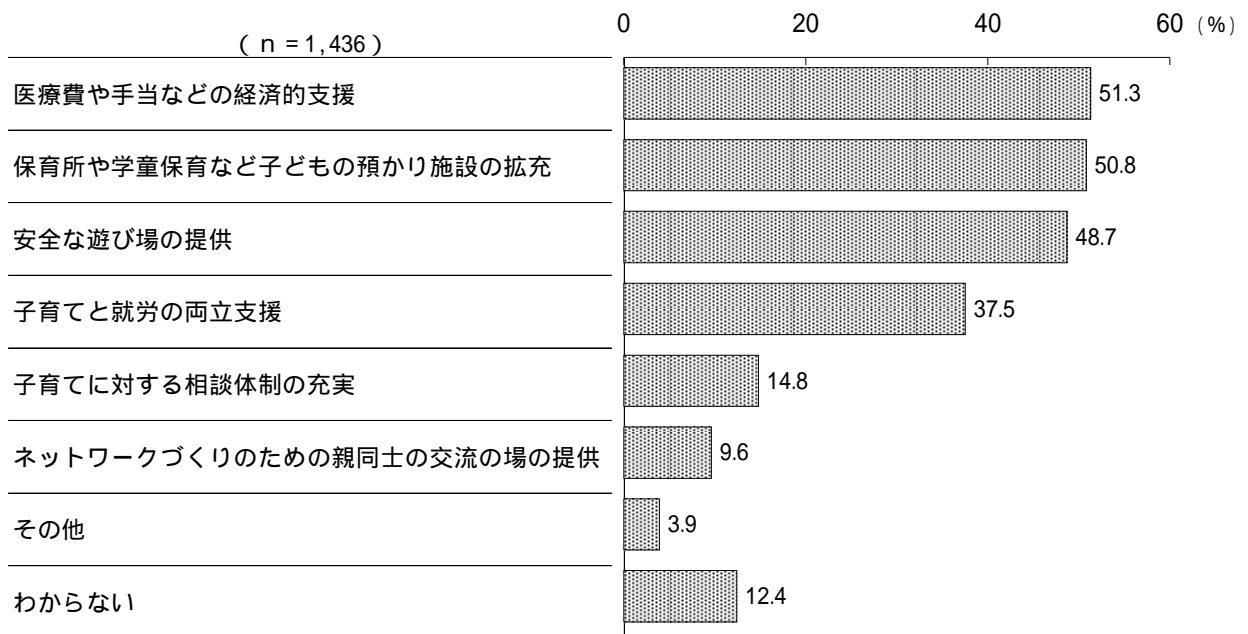
- ・総合満足度を示す「全体としての『暮らしやすさ』」を地域行政センター管内別にみると、大田西地域行政センター管内が全体平均を0.20ポイント上回って満足度が最も高く、次いで、大田北地域行政センター管内、大田東地域行政センター管内、大田南地区行政センター管内の順となっている。

(2) 子育て支援のために優先して取り組むべき施策

(全員の方に)

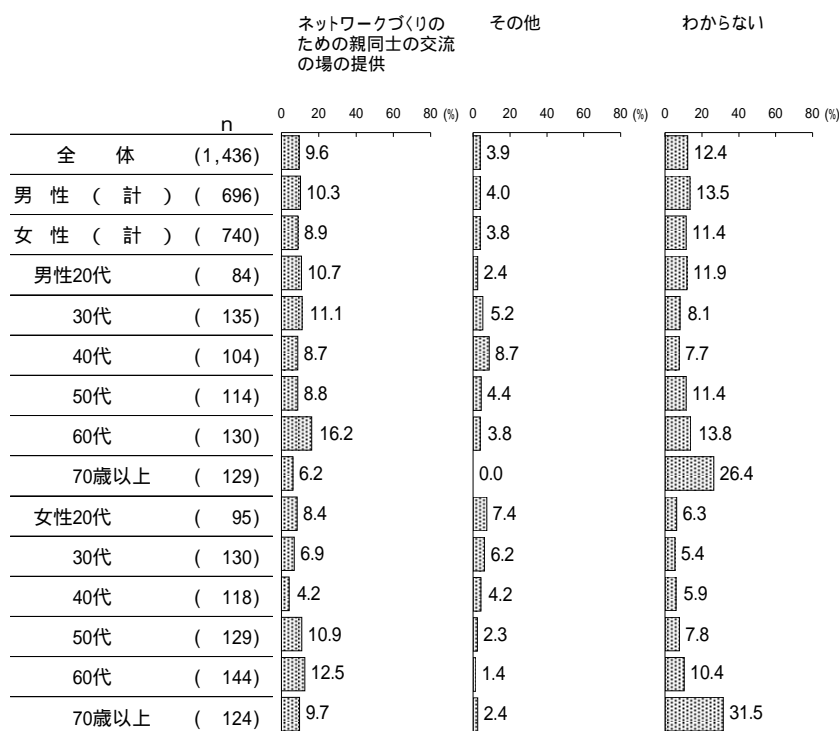
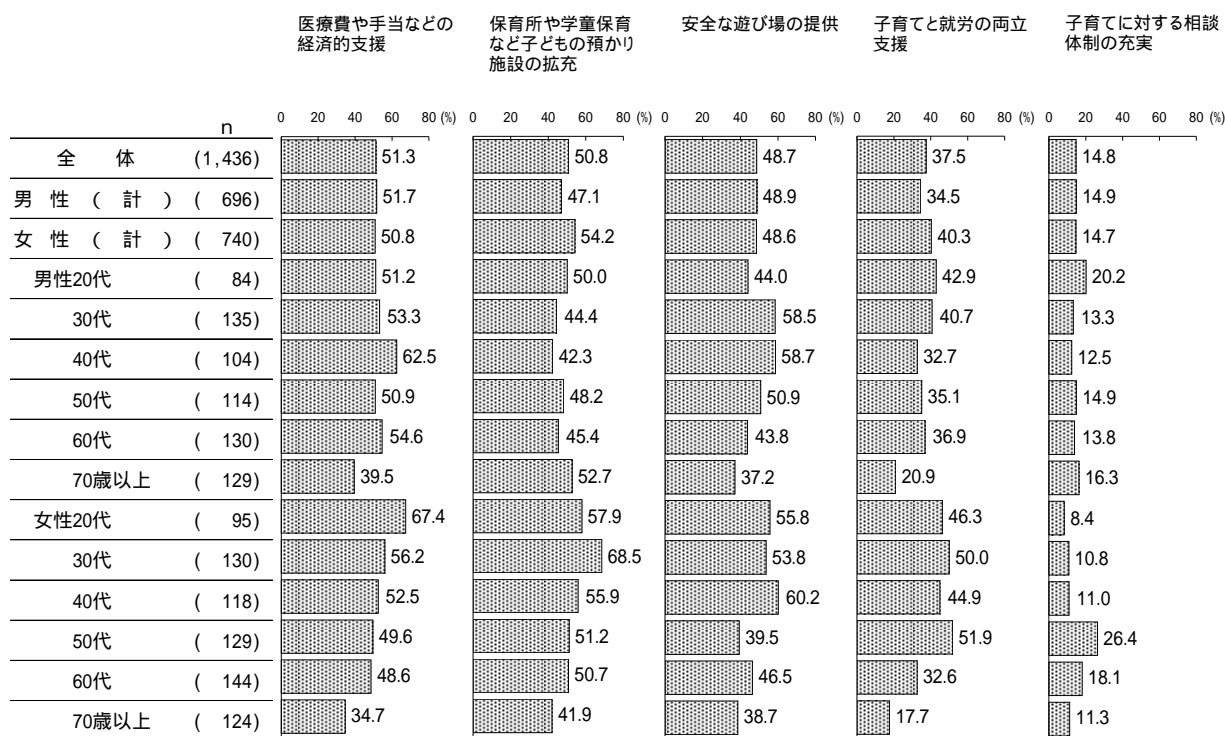
問4 .今後、安心して子どもを育てるために区が優先して進めるべきだと思う施策は何ですか。

(3つまで)



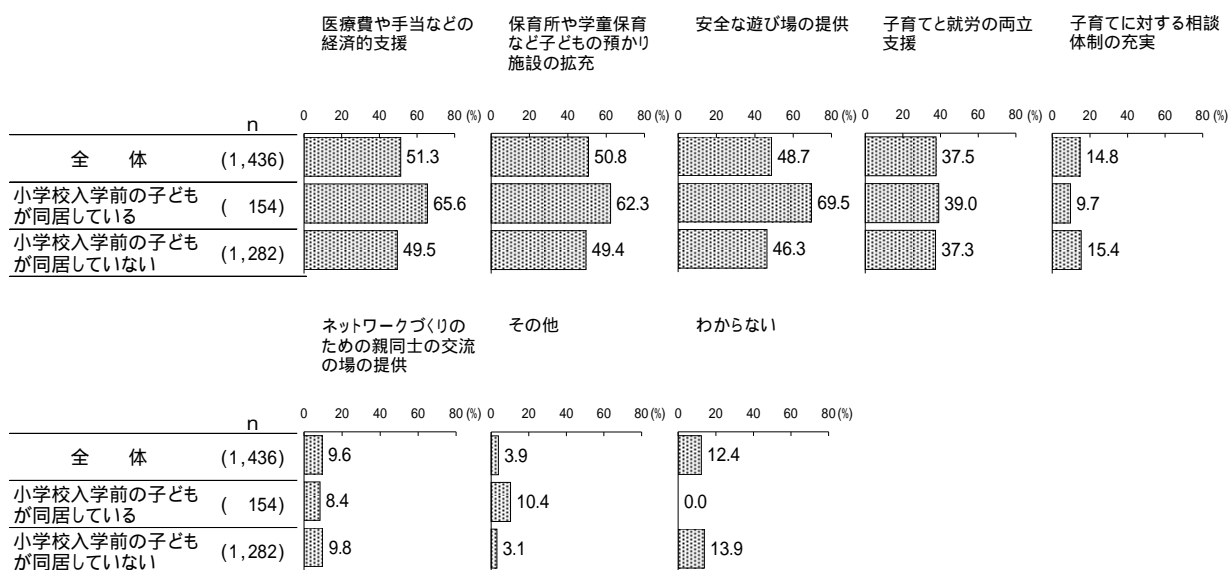
- ・全体で見ると、「医療費や手当などの経済的支援」(51.3%) が5割を超え最も高く、次いで「保育所や学童保育など子どもの預かり施設の拡充」(50.8%)、「安全な遊び場の提供」(48.7%)、「子育てと就労の両立支援」(37.5%)などの順となっている。

[子育て支援のために優先して取り組むべき施策 - 性/年代別]



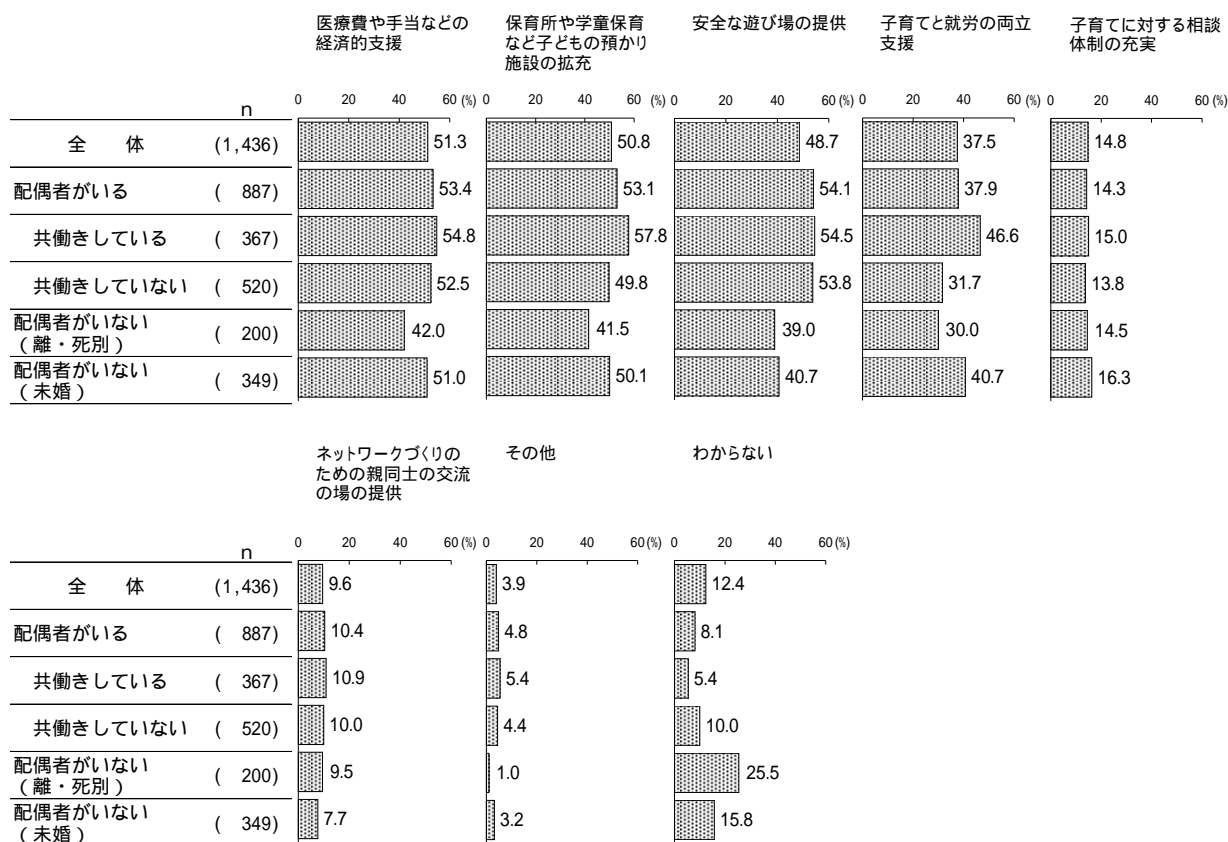
- ・性別にみると、「保育所や学童保育など子どもの預かり施設の拡充」では女性が男性より7.1ポイント高くなっている。
- ・性/年代別にみると、「医療費や手当などの経済的支援」では女性で低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20代で7割近くとなっている。「保育所や学童保育など子どもの預かり施設の拡充」でも女性で低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性30代で7割近くとなっている。また、「子育てと就労の両立支援」では女性30代と50代で5割以上と他の年代と比べて高くなっている。

[子育て支援のために優先して取り組むべき施策 - 小学校入学前の子どもの同居の有無別]



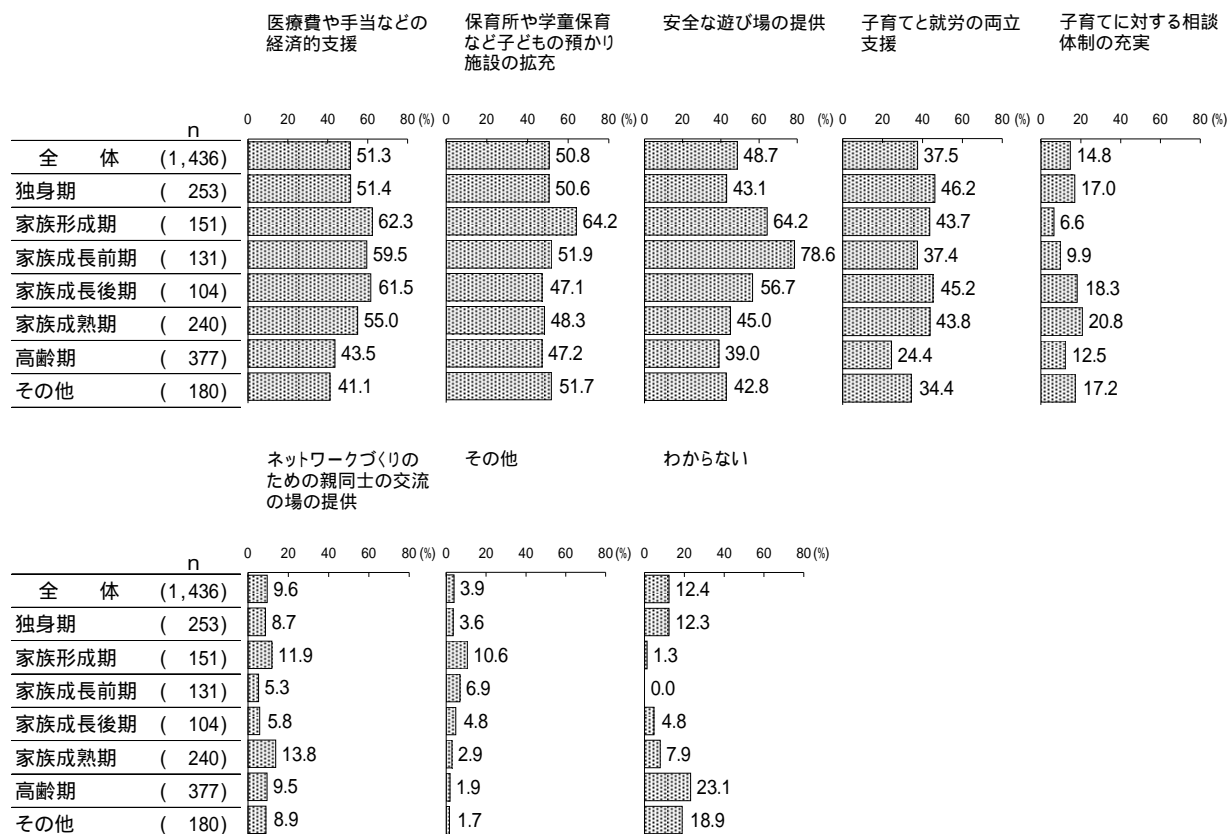
・ 小学校入学前の子どもの同居の有無別にみると、小学校入学前の子どもが同居している世帯の方が同居していない世帯より「安全な遊び場の提供」で 23.2 ポイント、「医療費や手当などの経済的支援」で 16.1 ポイント、「保育所や学童保育など子どもの預かり施設の拡充」で 12.9 ポイント、それぞれ高くなっている。

[子育て支援のために優先して取り組むべき施策 - 配偶者の有無 / 共働きの有無別]



・ 配偶者の有無 / 共働きの有無別にみると、「保育所や学童保育など子どもの預かり施設の拡充」では共働きしている世帯が 6 割近く、「子育てと就労の両立支援」でも共働きしている世帯が 5 割近くと他の世帯と比べて高くなっている。

[子育て支援のために優先して取り組むべき施策 - ライフステージ別]

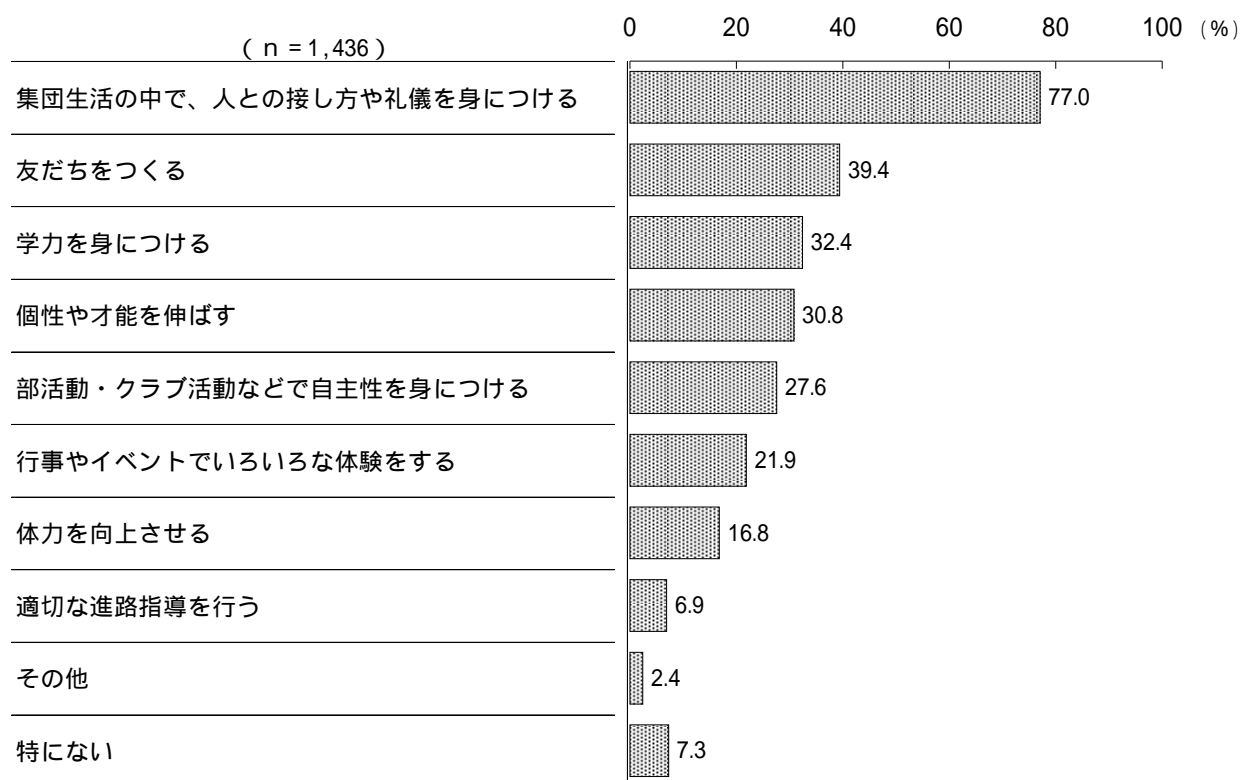


- ・ ライフステージ別にみると、「安全な遊び場の提供」では家族成長前期で8割近く、家族形成期で6割を超え高くなっている。また、「保育所や学童保育など子どもの預かり施設の拡充」では家族形成期で6割半ば、「医療費や手当などの経済的支援」では家族形成期、家族成長前期、家族成長後期で6割前後と高くなっている。

(3) 中学校までの学校教育に期待すること

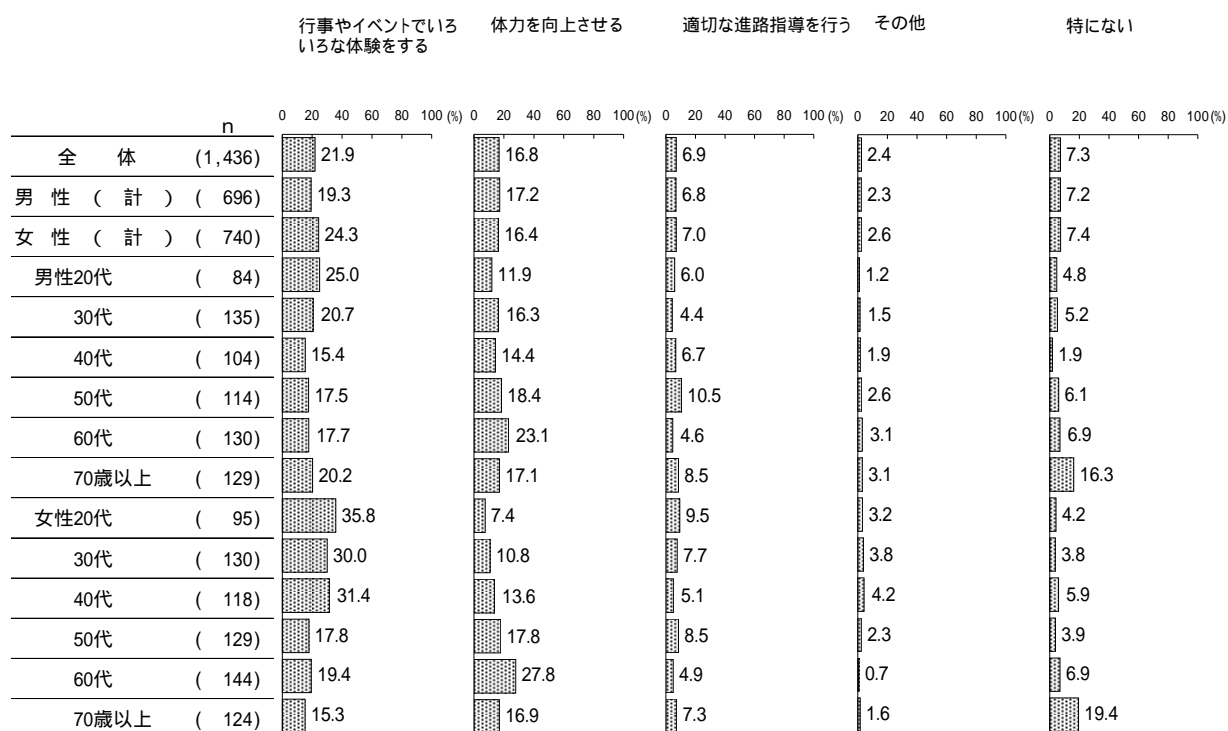
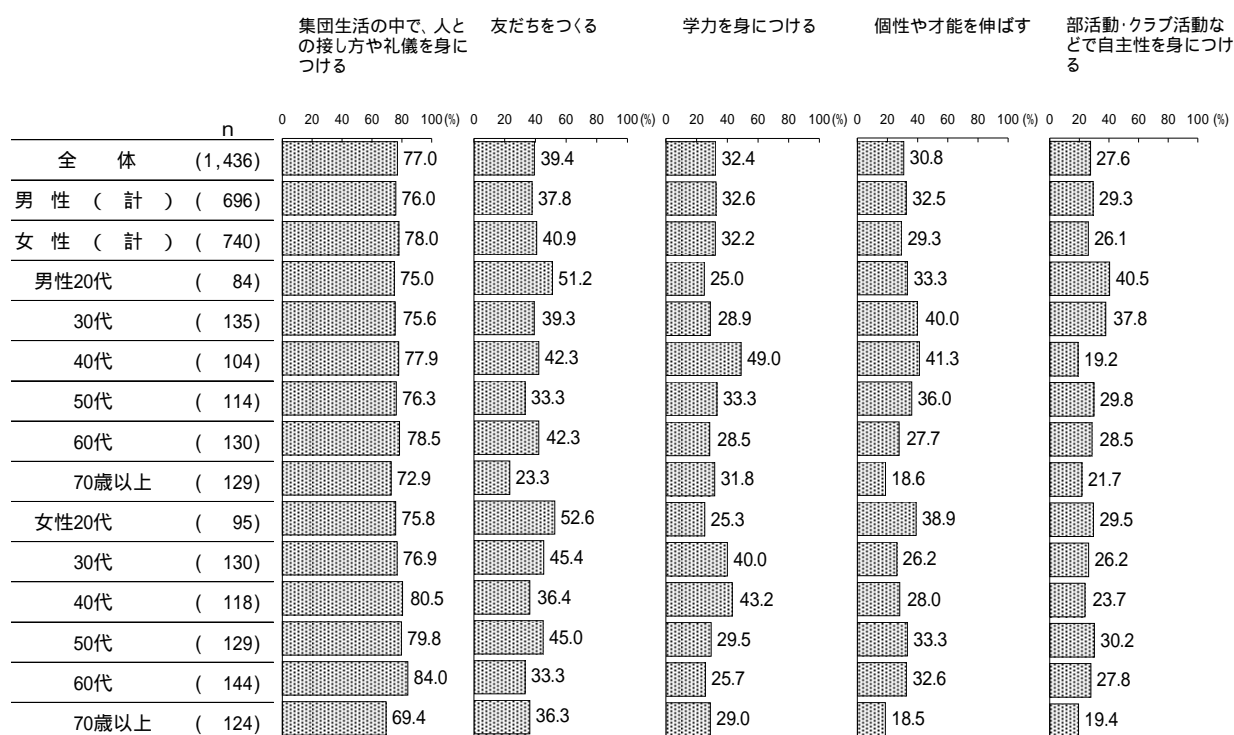
(全員の方に)

問5. あなたが、中学までの学校教育に期待することは何ですか。特に期待することをお選びください。(3つまで)



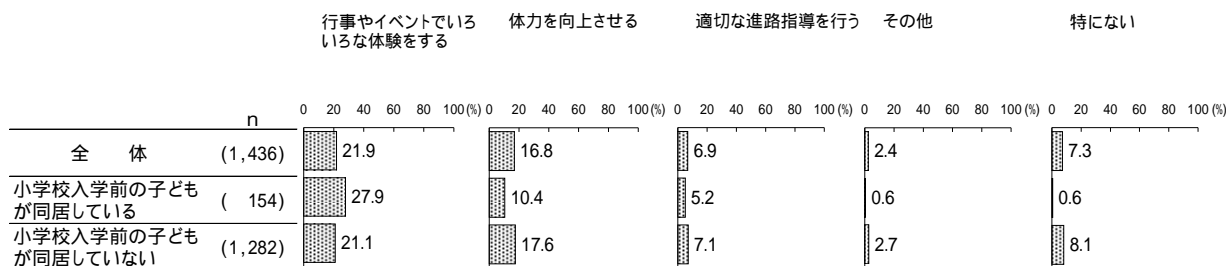
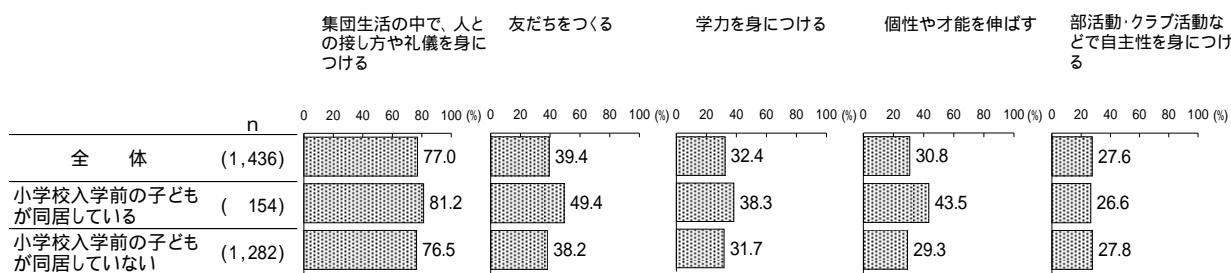
・全体で見ると、「集団生活の中で、人との接し方や礼儀を身につける」(77.0%)が8割近くと特に高く、次いで「友だちをつくる」(39.4%)、「学力を身につける」(32.4%)、「個性や才能を伸ばす」(30.8%)、「部活動・クラブ活動などで自主性を身につける」(27.6%)などの順となっている。

[中学校までの学校教育に期待すること - 性 / 年代別]



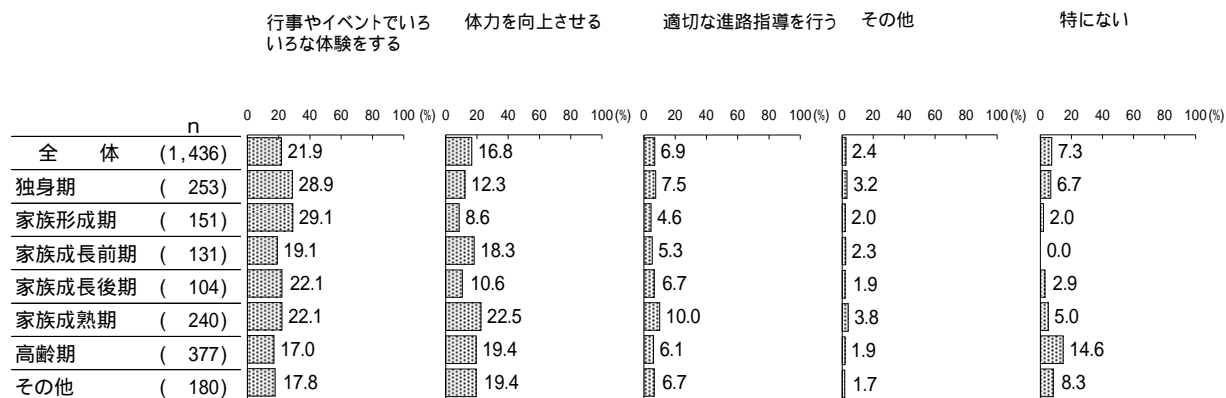
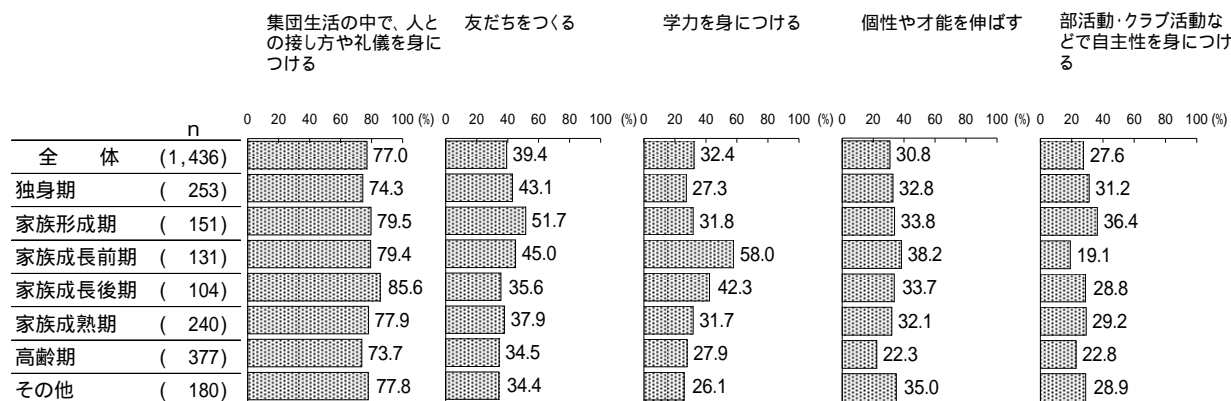
- ・性別にみると、「行事やイベントでいろいろな体験をする」では女性が男性より 5.0 ポイント高くなっている。
- ・性 / 年代別にみると、「集団生活の中で、人との接し方や礼儀を身につける」では女性 60 代で 8 割半ばとなっている。「友だちをつくる」では男女とも 20 代で 5 割を超え、「学力を身につける」では男性 40 代でほぼ 5 割、「部活動・クラブ活動などで自主性を身につける」では男性の 20 代と 30 代で 4 割前後と他の年代と比べて高くなっている。また、「行事やイベントでいろいろな体験をする」では女性 20 代で 3 割半ばとなっている。

[中学校までの学校教育に期待すること - 小学校入学前の子どもの同居の有無別]



- ・小学校入学前の子どもの同居の有無別にみると、小学校入学前の子どもが同居している世帯の方が同居していない世帯より「個性や才能を伸ばす」で14.2ポイント、「友だちをつくる」で11.2ポイント高くなっている。

[中学校までの学校教育に期待すること - ライフステージ別]



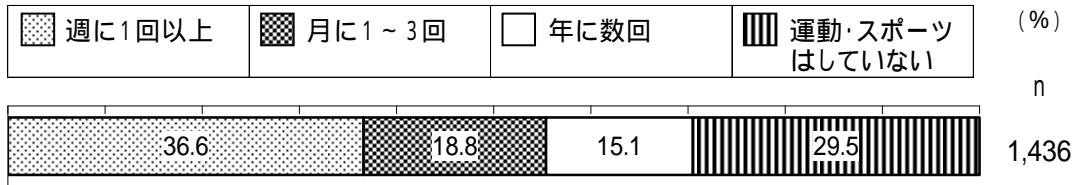
- ・ライフステージ別にみると、「集団生活の中で、人との接し方や礼儀を身につける」では家族成長後期で8割半ばとなっている。また、「友だちをつくる」では家族形成期で5割を超え、「学力を身につける」では家族成長前期で6割近くと他のステージと比べて高くなっている。

(4) 運動・スポーツの実施頻度

(全員の方に)

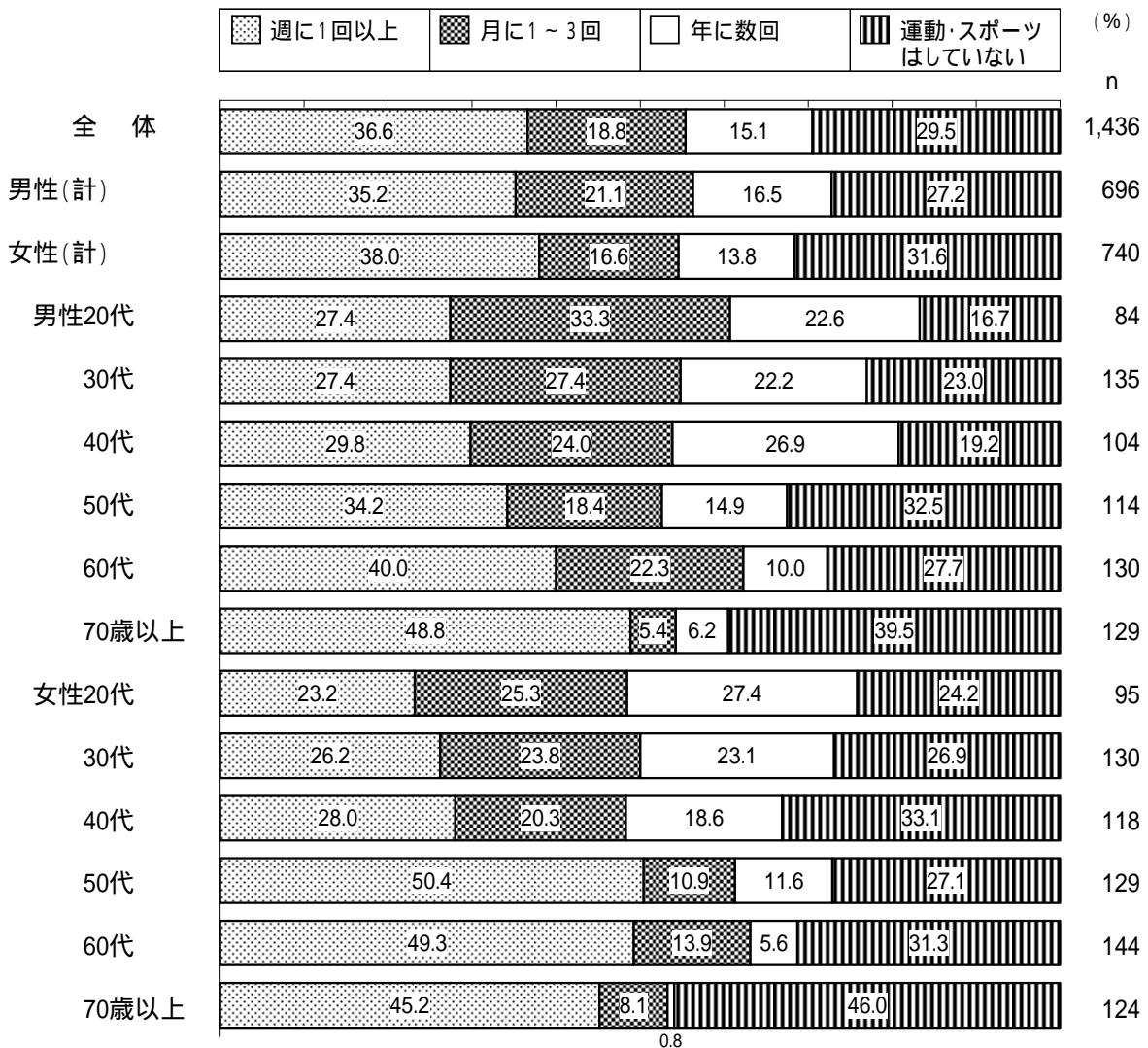
問6. あなたは、この一年間に、どれくらいの頻度で運動・スポーツ活動をしましたか。

なお、運動には30分程度の散歩なども含みます。(1つだけ)



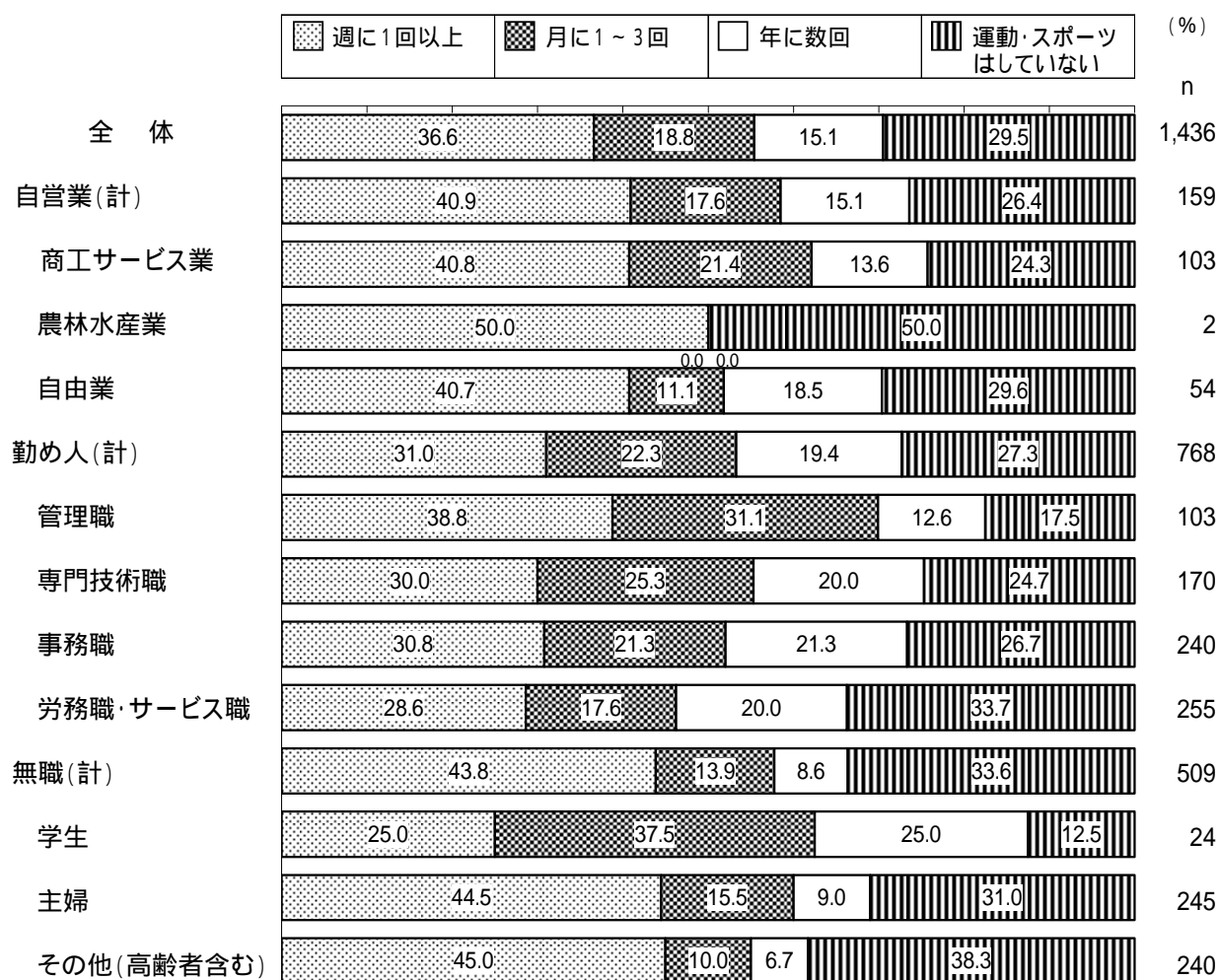
・全体で見ると、「週に1回以上」(36.6%)が4割近く、「月に1~3回」(18.8%)が2割近く、「年に数回」(15.1%)が1割半ば、「運動・スポーツはしていない」(29.5%)が3割となっている。

[運動・スポーツの実施頻度 - 性/年代別]



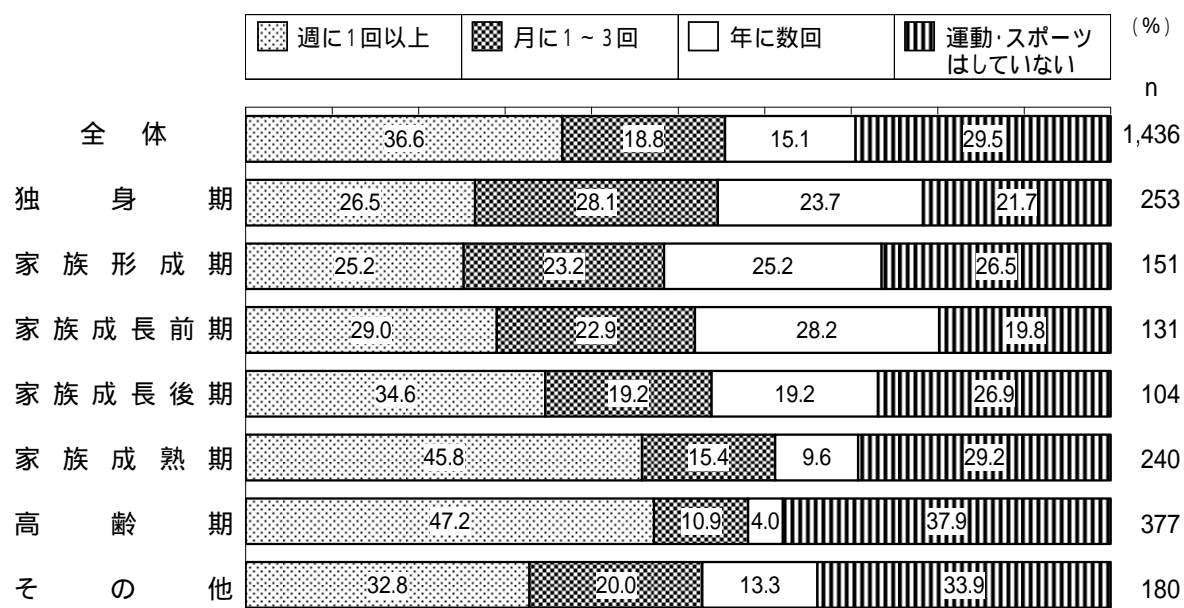
・性別にみると、男女間で大きな差はみられない。
 ・性/年代別にみると、「週に1回以上」では女性の50代と60代でほぼ5割、男性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性70歳以上では5割近くとなっている。また、「運動・スポーツはしていない」では男女とも70歳以上で4割から4割半ばと他の年代と比べて高くなっている。

[運動・スポーツの実施頻度 - 職業別]



・職業別にみると、「週に1回以上」では『無職(計)』で4割を超え、「年に数回」では『勤め人(計)』でほぼ2割となっている。

[運動・スポーツの実施頻度 - ライフステージ別]

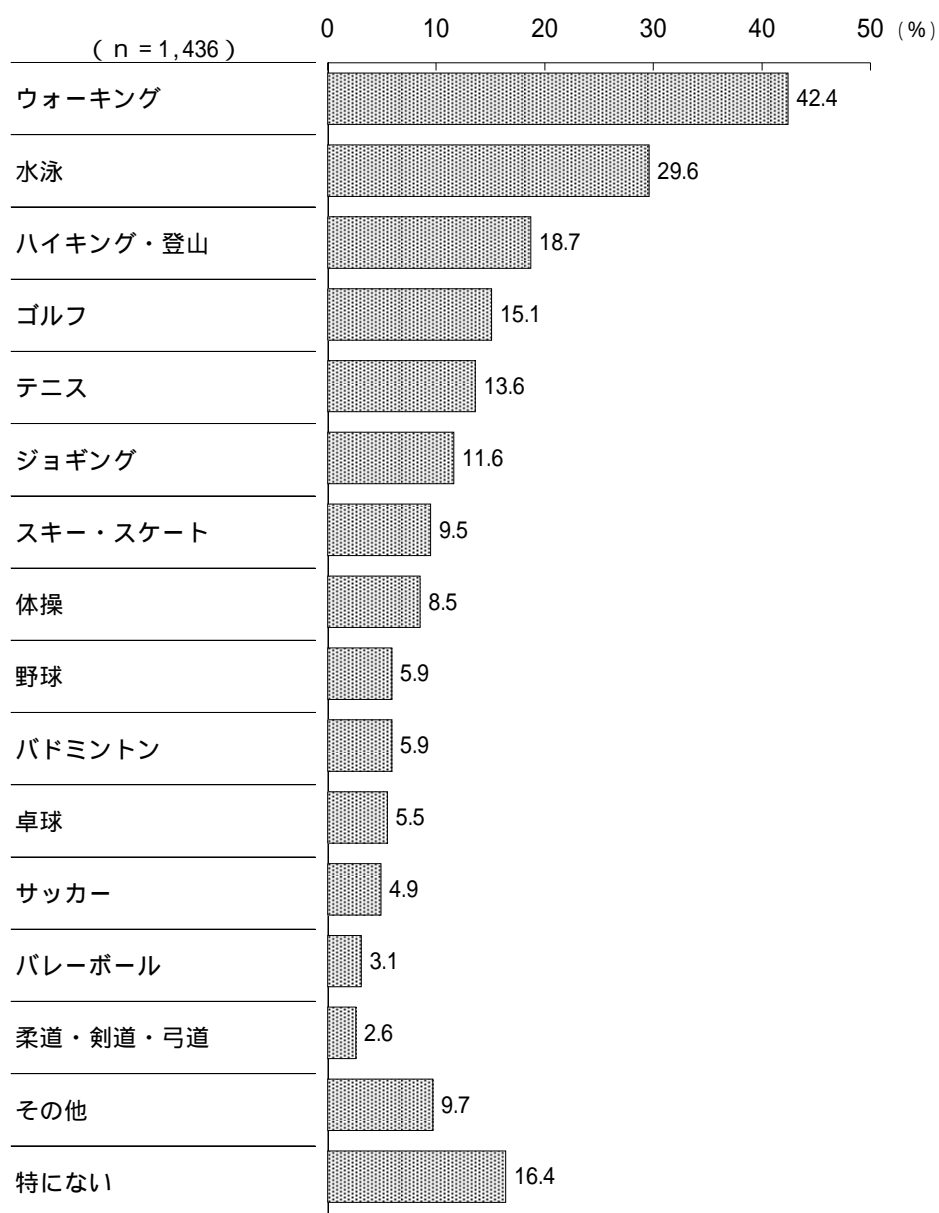


- ・ライフステージ別にみると、「週に1回以上」では高いステージほど割合が高い傾向にあり、高齢期では5割近くとなっている。また、「年に数回」では独身期、家族形成期、家族成長前期で2割を超え、「運動・スポーツはしていない」では高齢期で4割近くとなっている。

(5) 今後したいと思う運動・スポーツ

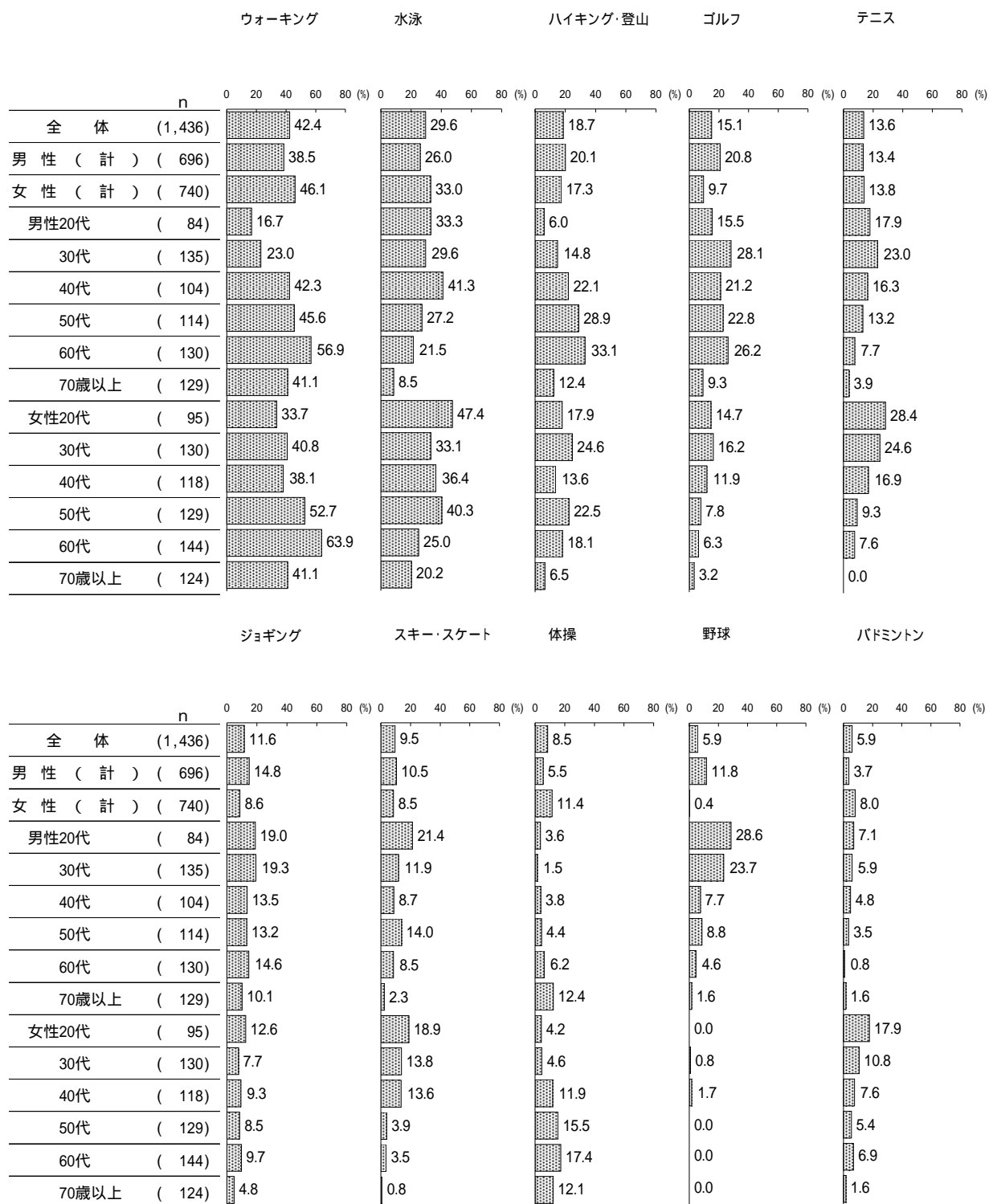
(全員の方に)

問7. あなたは、今後どんな運動・スポーツをしたいと思いますか。(いくつでも)



- ・全体でみると、「ウォーキング」(42.4%)が4割を超え最も高く、次いで「水泳」(29.6%)、「ハイキング・登山」(18.7%)、「ゴルフ」(15.1%)、「テニス」(13.6%)、「ジョギング」(11.6%)などの順となっている。

[今後したいと思う運動・スポーツ - 性/年代別 (上位 10 項目)]

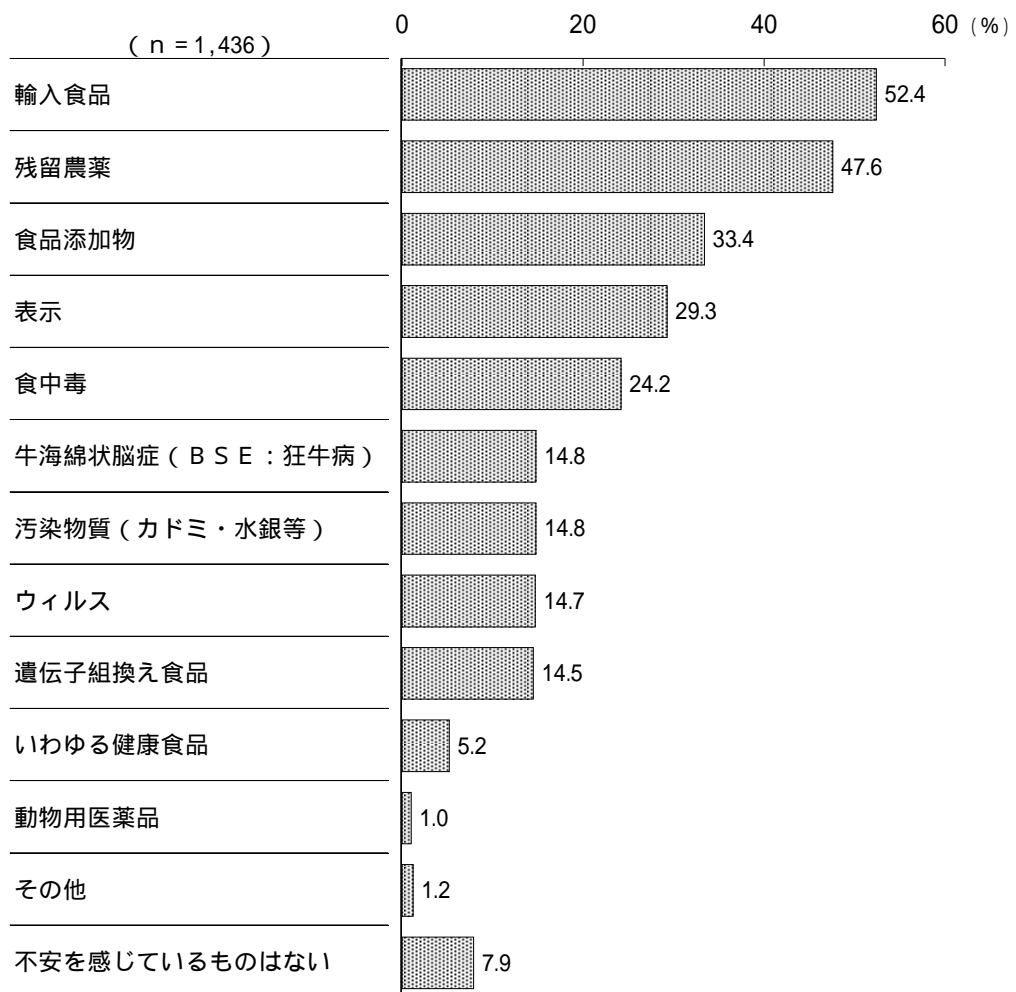


- ・性別にみると、「野球」では男性が女性より 11.4 ポイント、「ゴルフ」でも男性が女性より 11.1 ポイント高くなっている。
- ・性/年代別にみると、「ウォーキング」では男女とも 60 代で 6 割前後と他の年代と比べて高くなっている。また、「水泳」では男性 40 代、女性 20 代、女性 50 代で 4 割から 5 割近くと高く、「ハイキング・登山」では男性の 50 代と 60 代で 3 割前後となっている。

(6) 食品の安全性について不安を感じること

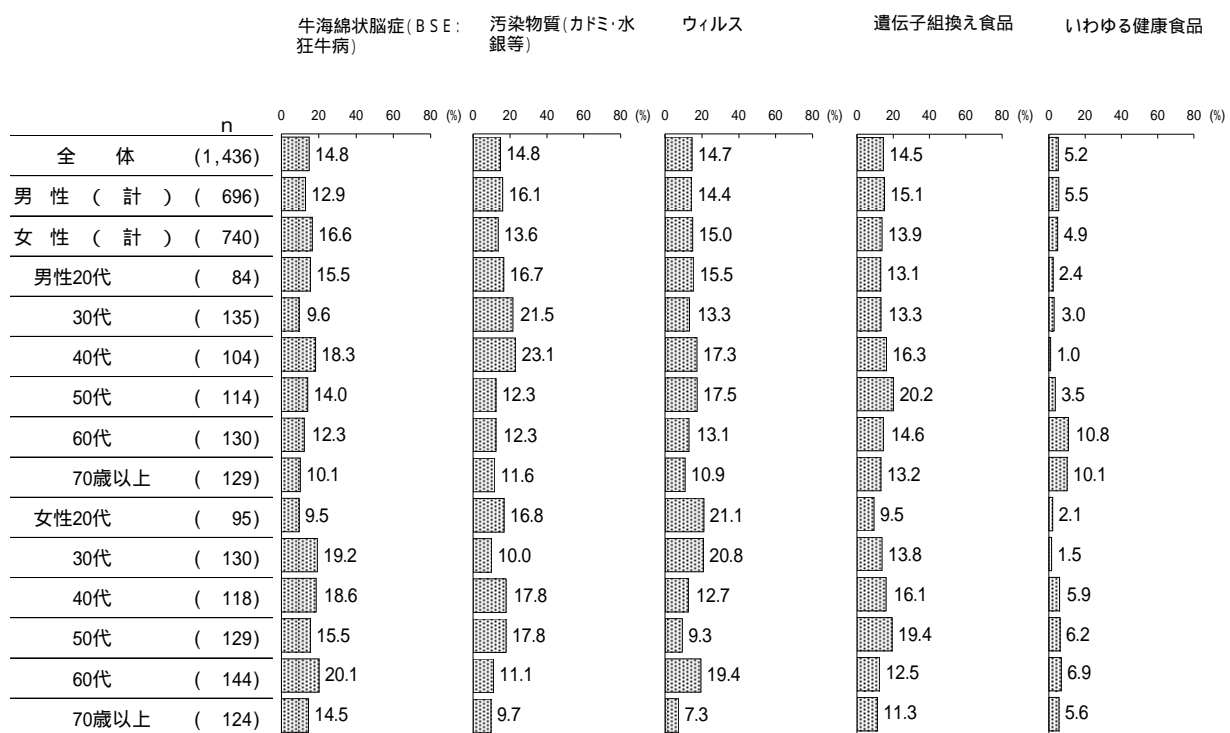
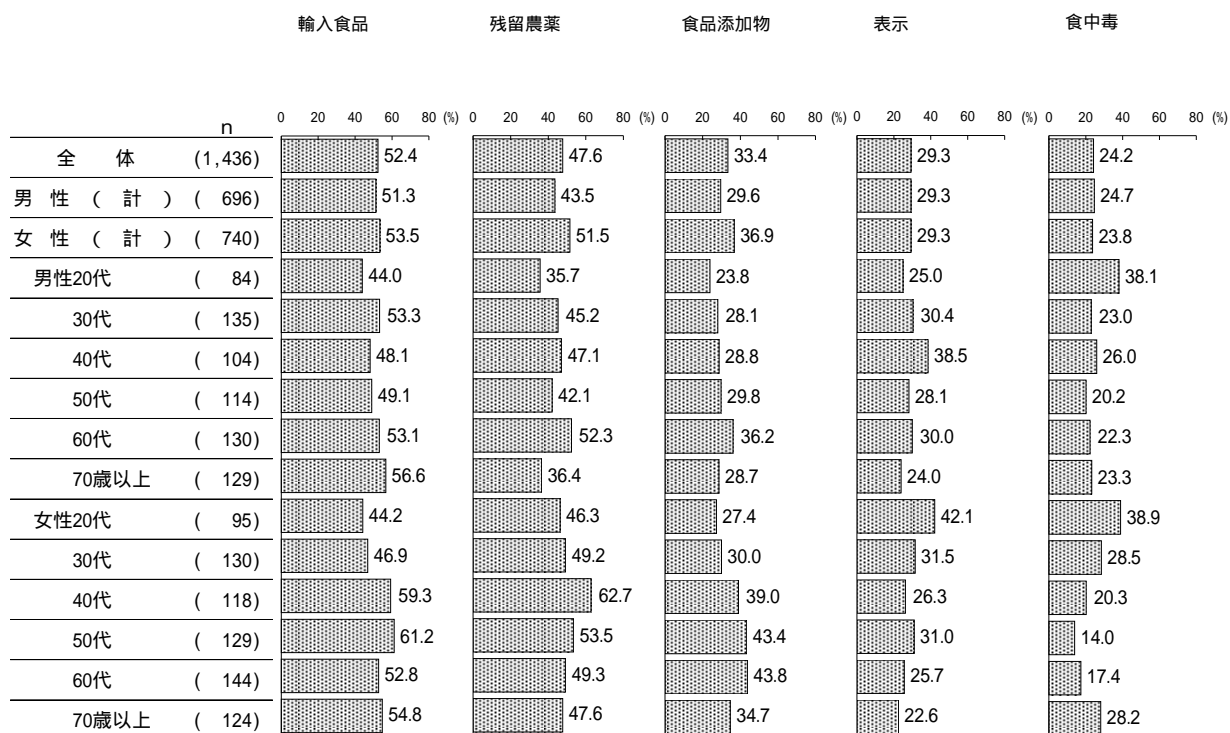
(全員の方に)

問8. 食品の安全性について不安を感じているものがありますか。(3つまで)



・全体でみると、「輸入食品」(52.4%)が5割を超え最も高く、次いで「残留農薬」(47.6%)、「食品添加物」(33.4%)、「表示」(29.3%)、「食中毒」(24.2%)などの順となっている。

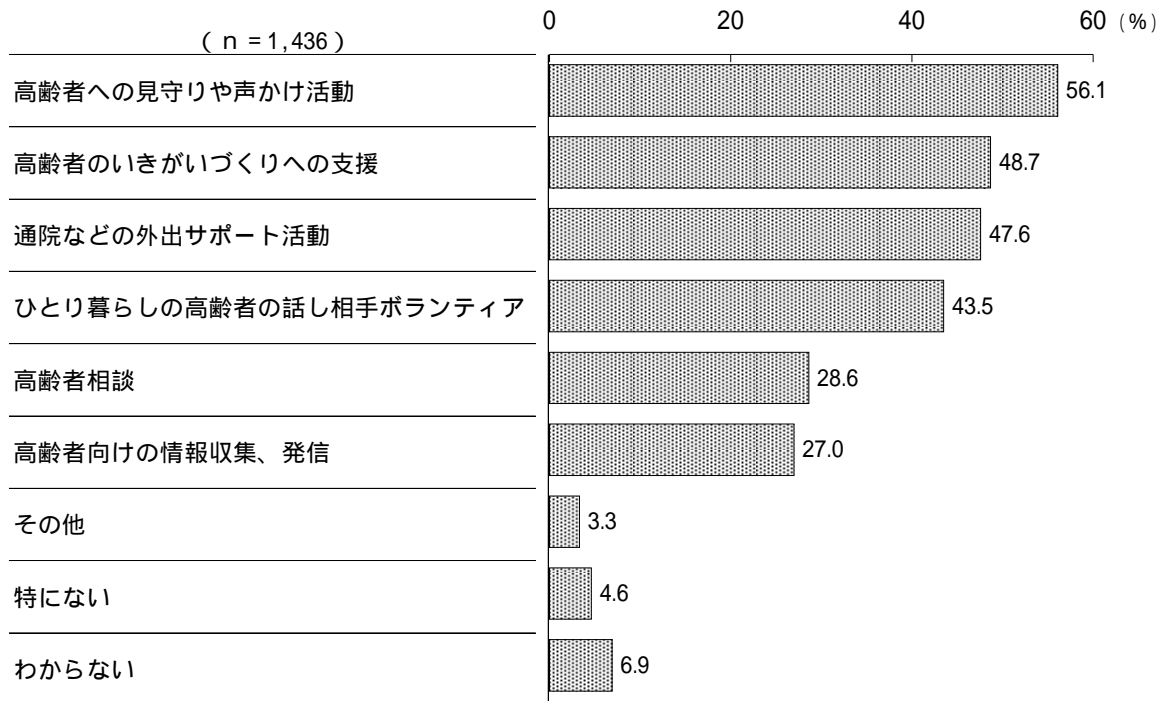
[食品の安全性について不安を感じること - 性 / 年代別 (上位 10 項目)]



- ・性別にみると、「残留農薬」では女性が男性より 8.0 ポイント、「食品添加物」でも女性が男性より 7.3 ポイント高くなっている。
- ・性 / 年代別にみると、「輸入食品」では女性の 40 代と 50 代で 6 割前後となっている。「残留農薬」では女性 40 代で 6 割を超え高くなっている。「食品添加物」では女性の 50 代と 60 代で 4 割を超え、「表示」では女性で低い年代ほど割合が高い傾向にある。また、「食中毒」では男女とも 20 代で 4 割近くと他の年代と比べて高くなっている。

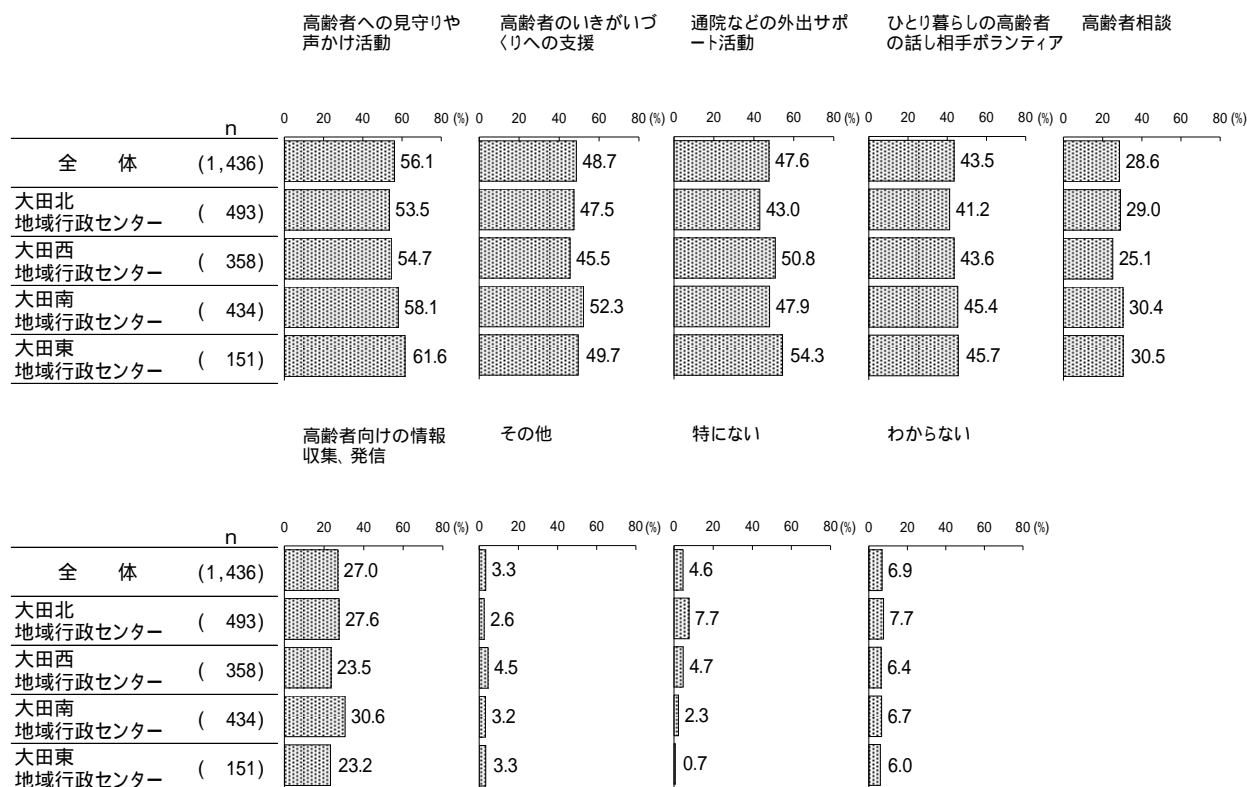
(7) 高齢者が地域で安心して暮らしていくために必要だと思う地域活動
(全員の方に)

問 9 . 高齢者の方が住みなれた地域でいつまでも安心して暮らしていくために、地域の中でどんな活動が必要だと思いますか。(いくつかでも)



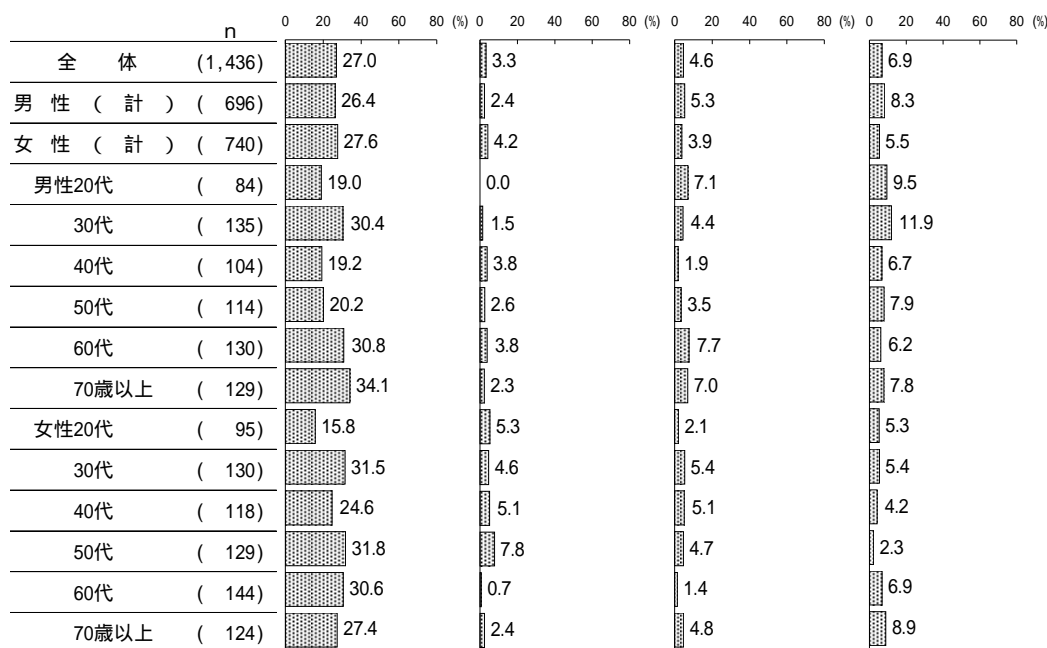
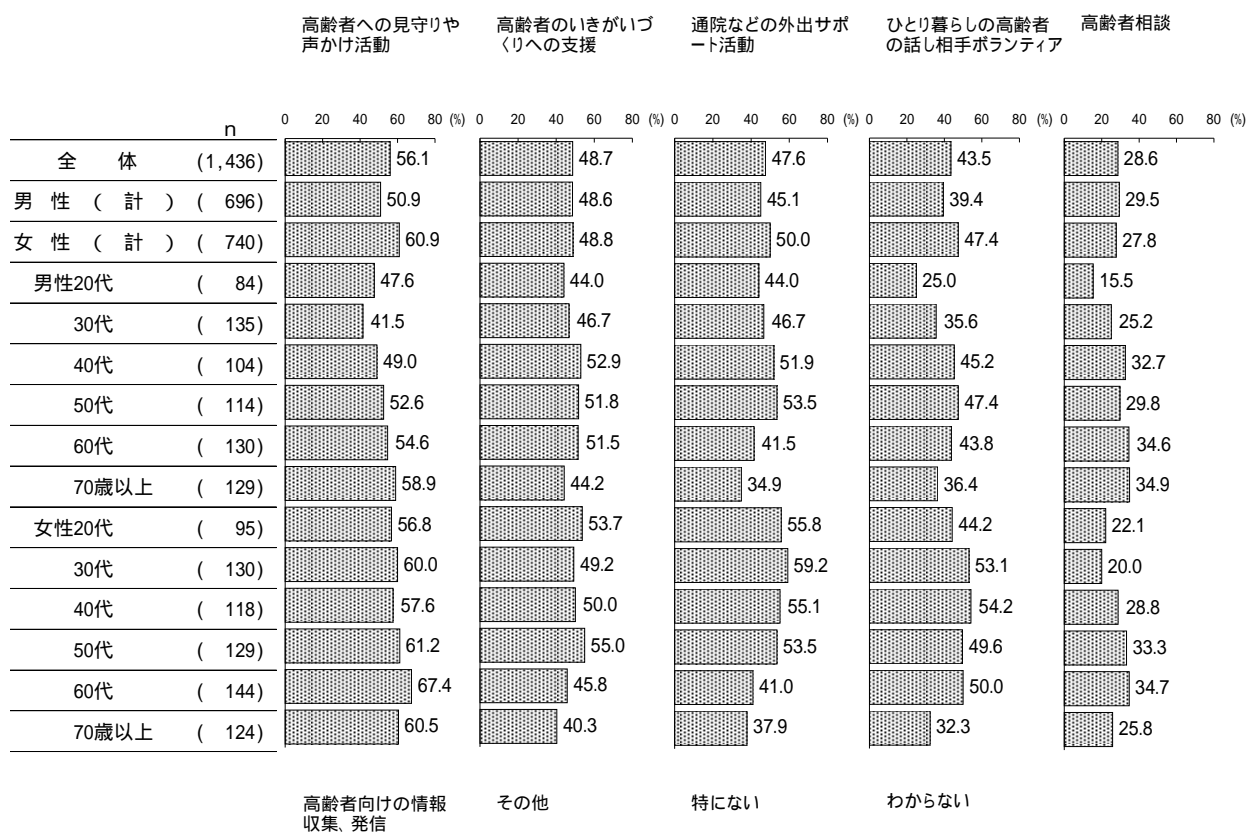
- ・全体で見ると、「高齢者への見守りや声かけ活動」(56.1%) が 5 割半ばと最も高く、次いで「高齢者のいきがづくりへの支援」(48.7%)、「通院などの外出サポート活動」(47.6%)、「ひとり暮らしの高齢者の話し相手ボランティア」(43.5%) などの順となっている。

[高齢者が地域で安心して暮らしていくために必要だと思う地域活動 - 地域行政センター管内別]



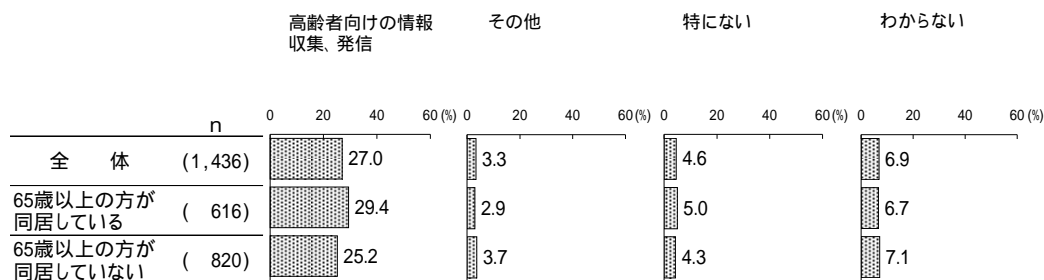
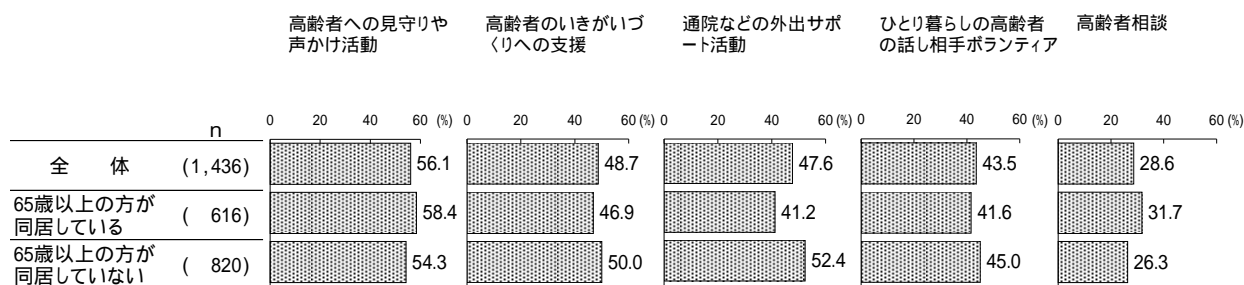
- ・ 地域行政センター管内別にみると、「高齢者への見守りや声かけ活動」では大田南地域行政センターと大田東地域行政センターで6割前後、「高齢者のいきがづくりへの支援」では大田南地域行政センターで5割を超えている。また、「通院などの外出サポート活動」では大田西地域行政センターと大田東地域行政センターで5割を超えている。

[高齢者が地域で安心して暮らしていくために必要だと思う地域活動 - 性 / 年代別]



- ・性別にみると、「高齢者への見守りや声かけ活動」では女性が男性より 10.0 ポイント、「ひとり暮らしの高齢者の話し相手ボランティア」でも女性が男性より 8.0 ポイント高くなっている。
- ・性 / 年代別にみると、「高齢者への見守りや声かけ活動」では女性 60 代で 7 割近くと高く、男性では高い年代ほど割合が高い傾向にある。また、「通院などの外出サポート活動」では女性で低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性 30 代ではほぼ 6 割となっている。

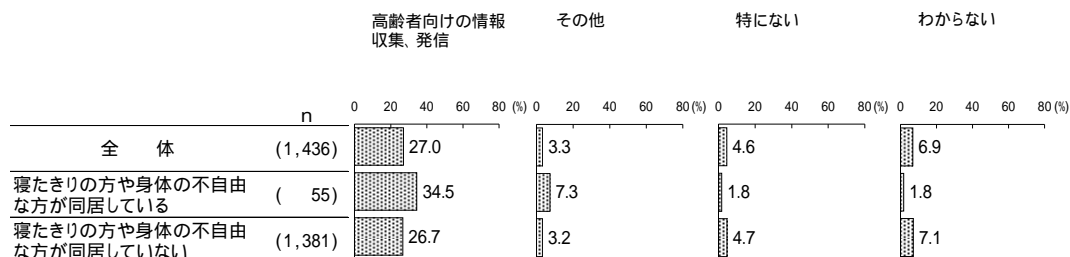
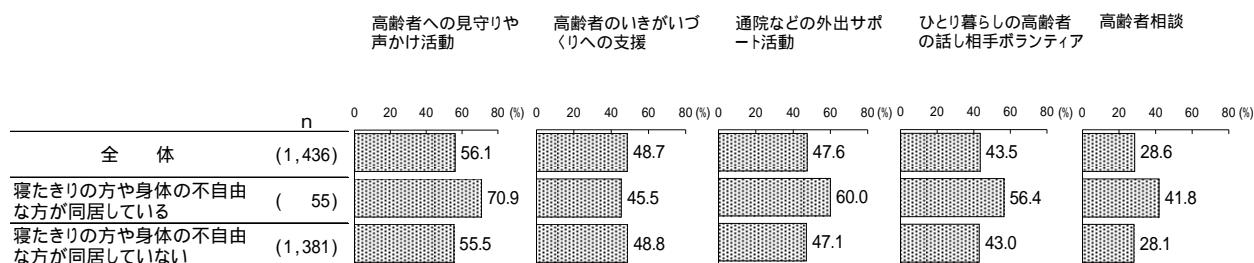
[高齢者が地域で安心して暮らしていくために必要だと思う地域活動 - 65歳以上の方の同居の有無別]



・65歳以上の方の同居の有無別にみると、「通院などの外出サポート活動」では65歳以上の方が同居していない世帯の方が同居している世帯より11.2ポイント高くなっている。

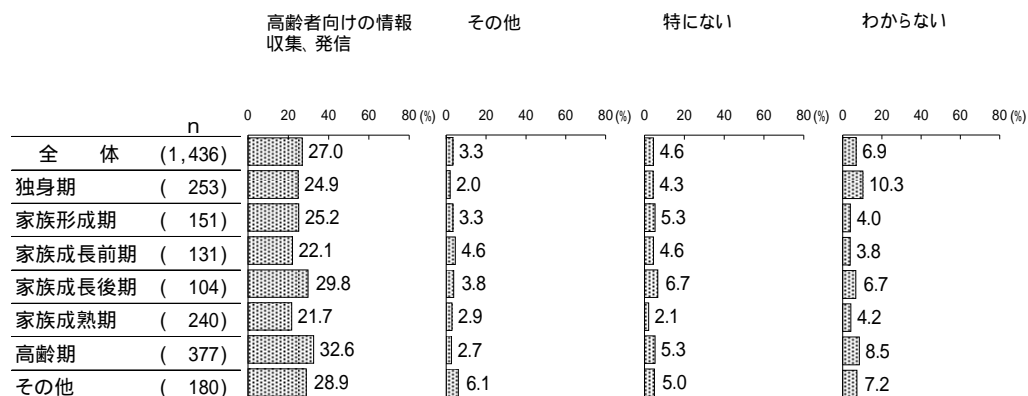
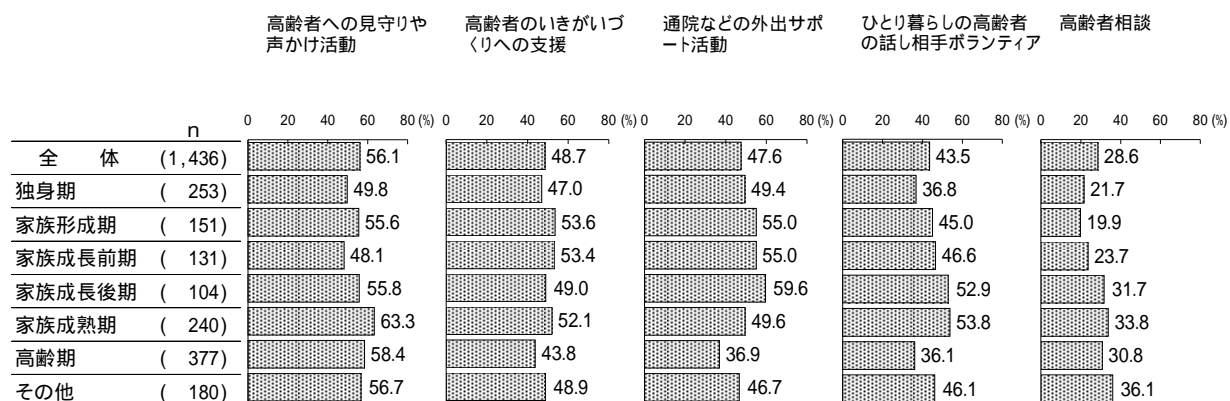
[高齢者が地域で安心して暮らしていくために必要だと思う地域活動

- 寝たきりの方や身体の不自由な方の同居の有無別]



・寝たきりの方や身体の不自由な方の同居の有無別にみると、寝たきりの方や身体の不自由な方が同居している世帯では「高齢者への見守りや声かけ活動」がほぼ7割、「通院などの外出サポート活動」が6割となっている。

[高齢者が地域で安心して暮らしていくために必要だと思う地域活動 - ライフステージ別]

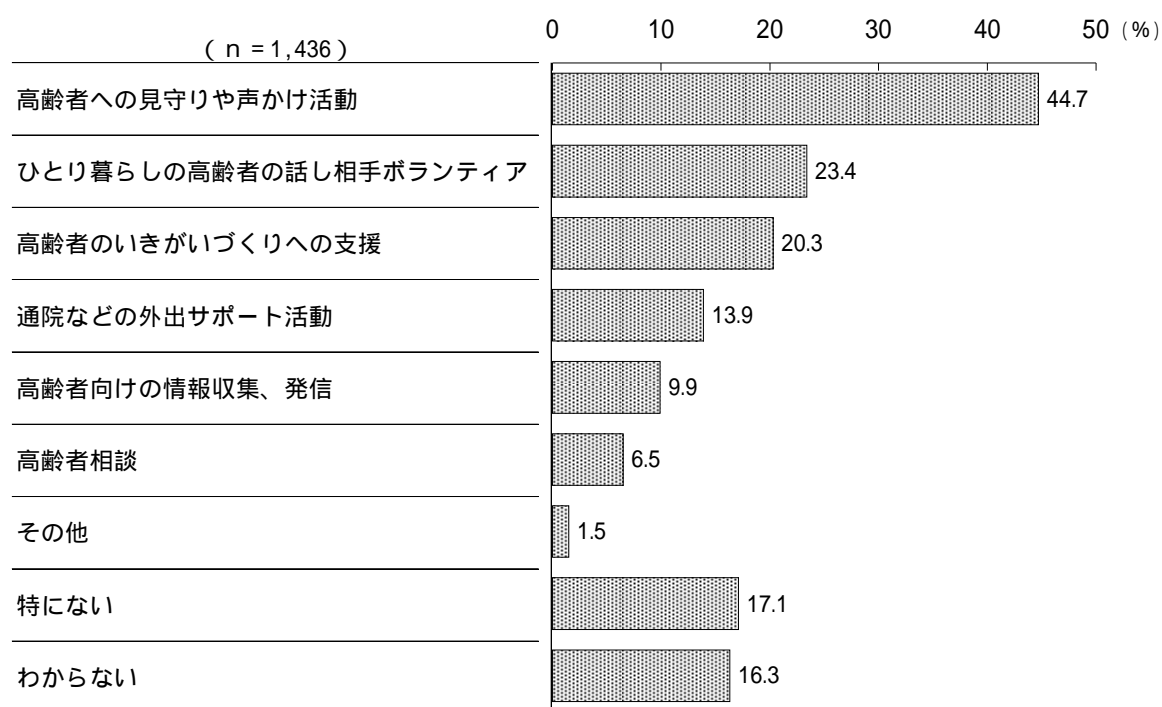


- ・ライフステージ別にみると、「高齢者への見守りや声かけ活動」では家族成熟期で6割を超え、「通院などの外出サポート活動」では家族成長後期で6割となっている。また、「ひとり暮らしの高齢者の話し相手ボランティア」では家族成長後期と家族成熟期で5割を超え他のステージと比べて高くなっている。

(8) 高齢者が地域で安心して暮らしていくために協力できる地域活動

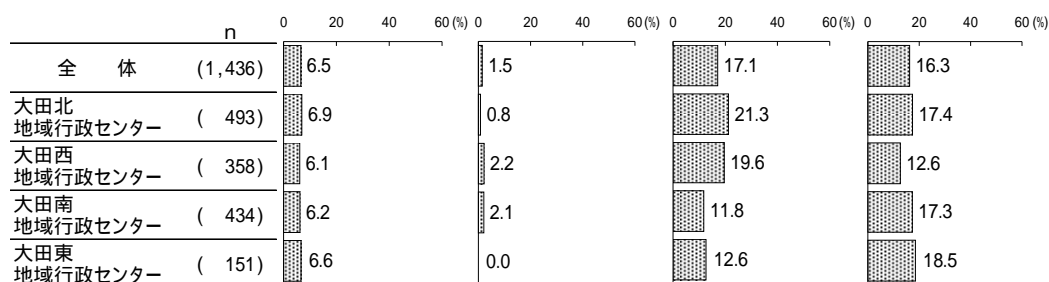
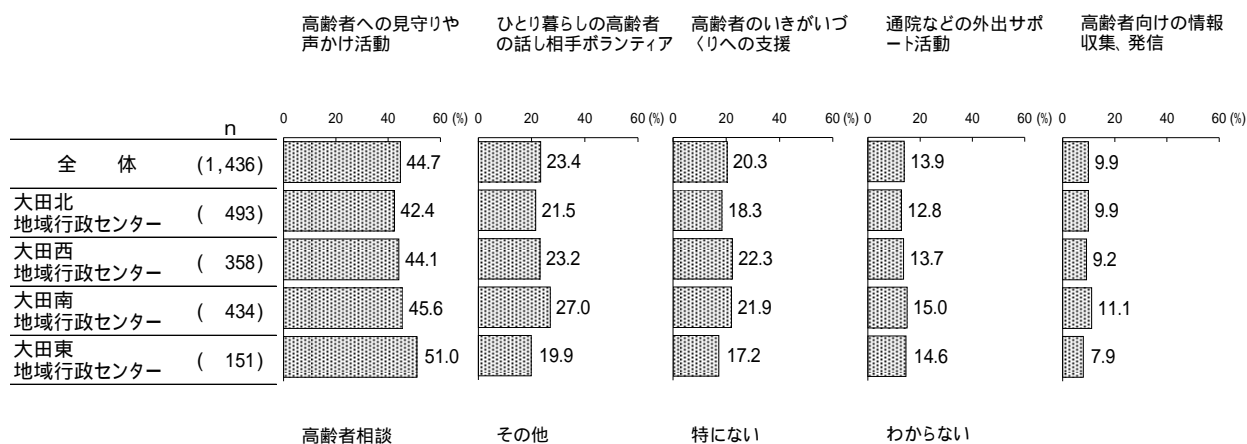
(全員の方に)

問10 . 前問の項目であなたが協力してもよいと思うものは何ですか。(いくつでも)



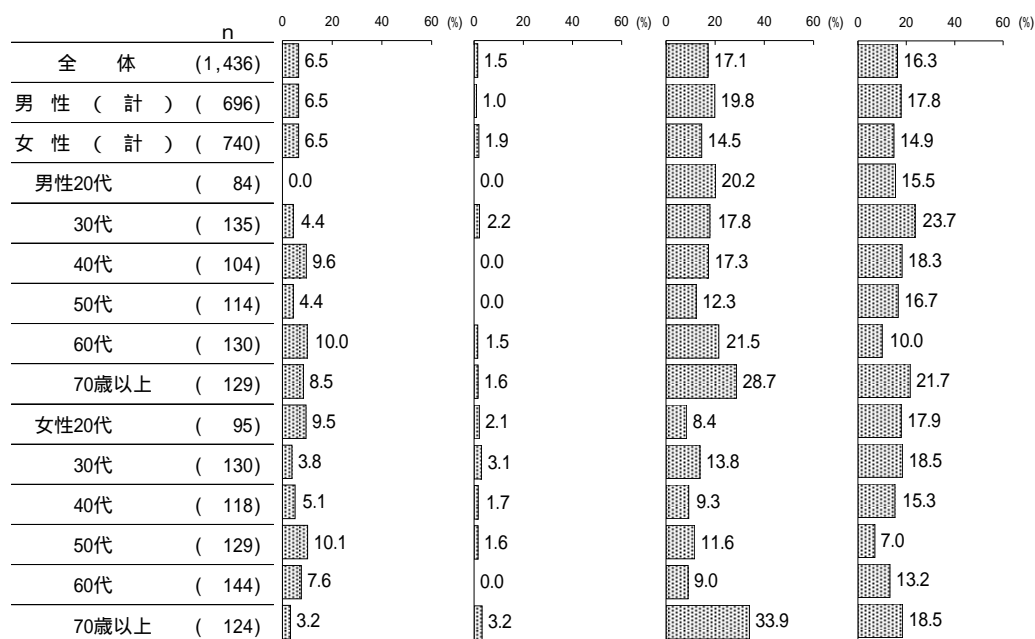
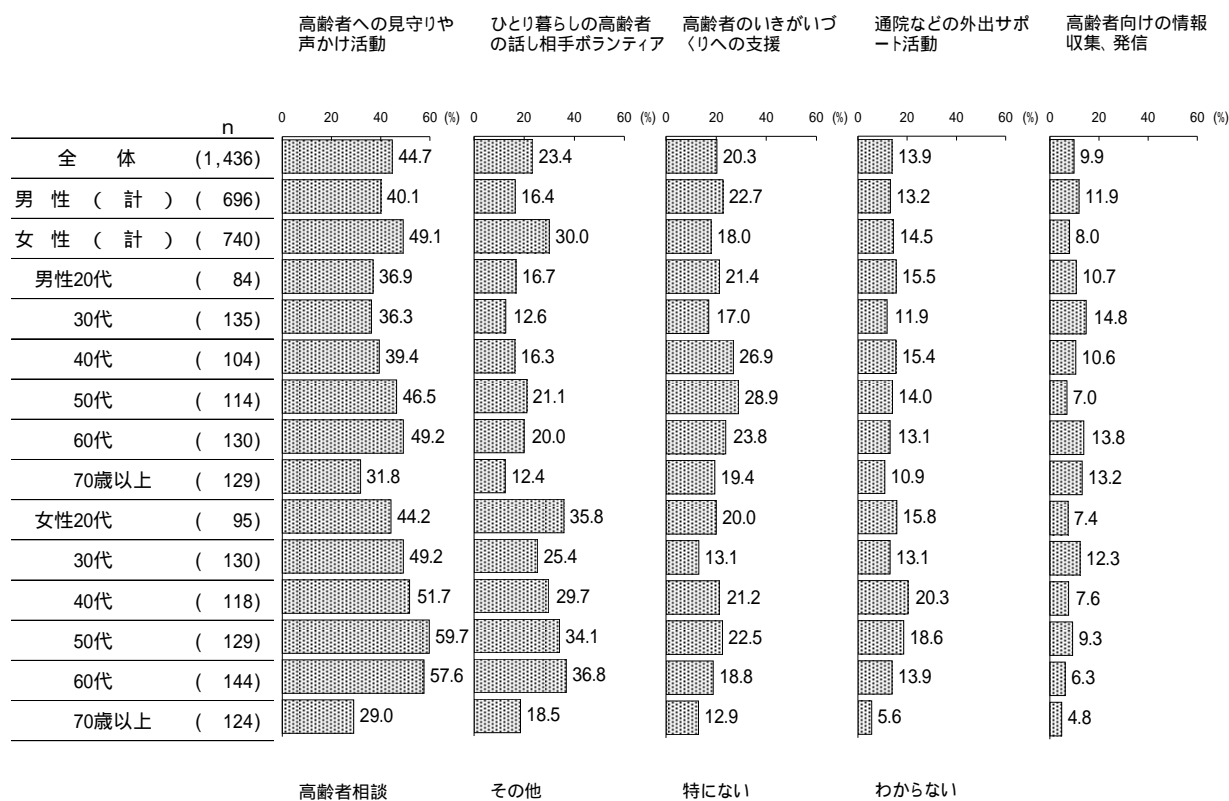
- ・全体で見ると、「高齢者への見守りや声かけ活動」(44.7%)が4割半ばと最も高く、次いで「ひとり暮らしの高齢者の話し相手ボランティア」(23.4%)、「高齢者のいきがづくりへの支援」(20.3%)、「通院などの外出サポート活動」(13.9%)などの順となっている。

[高齢者が地域で安心して暮らしていくために協力できる地域活動 - 地域行政センター管内別]



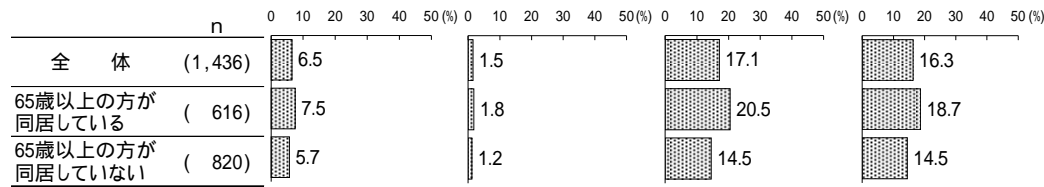
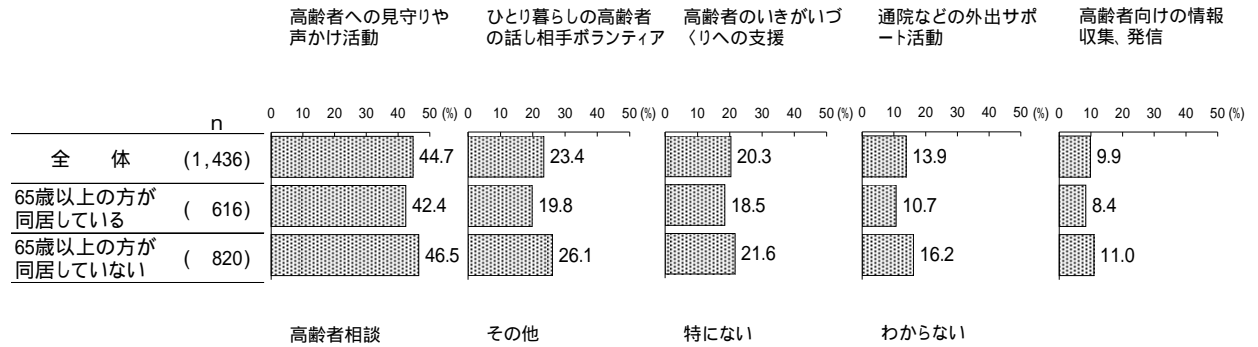
・地域行政センター管内別にみると、「高齢者への見守りや声かけ活動」では大田東地域行政センターで5割を超えている。

[高齢者が地域で安心して暮らしていくために協力できる地域活動 - 性 / 年代別]



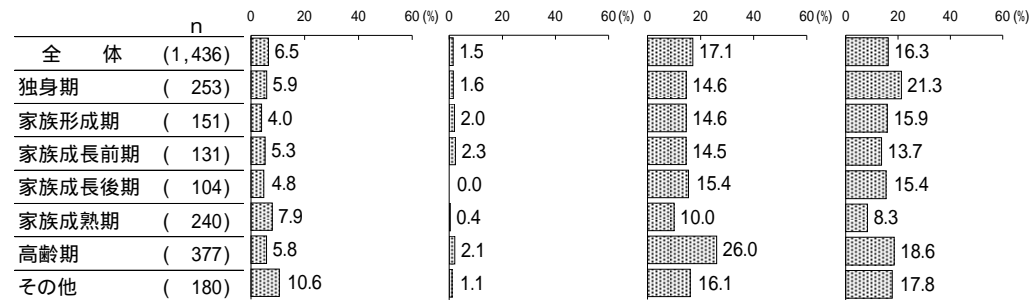
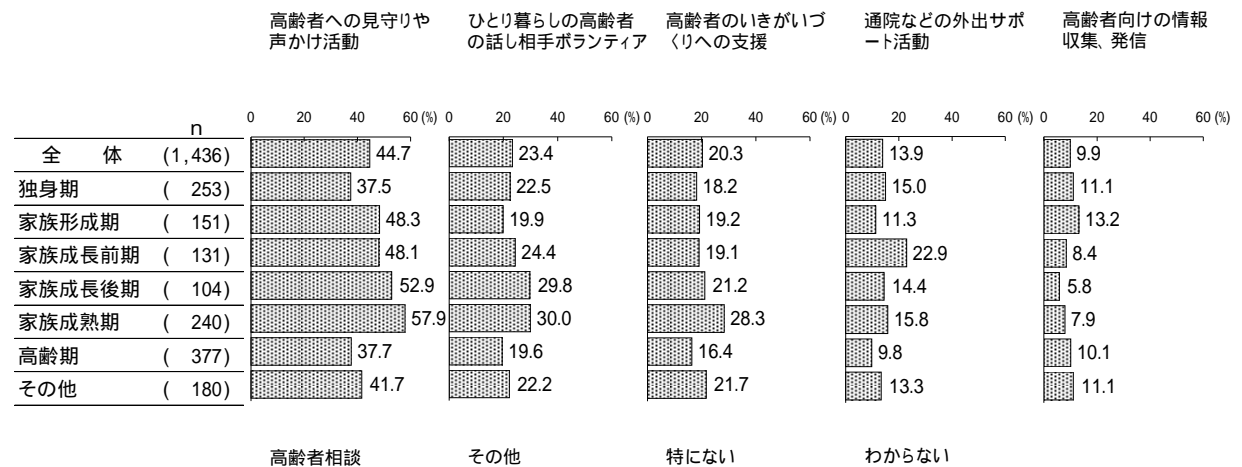
- ・性別にみると、「ひとり暮らしの高齢者の話し相手ボランティア」では女性が男性より13.6ポイント高く、「高齢者への見守りや声かけ活動」でも女性が男性より9.0ポイント高くなっている。
- ・性 / 年代別にみると、「高齢者への見守りや声かけ活動」では女性の50代と60代で6割近くと高く、「ひとり暮らしの高齢者の話し相手ボランティア」では女性の20代、50代、60代で3割半ばと他の年代と比べて高くなっている。また、「特にない」では男女とも70歳以上で3割前後となっている。

[高齢者が地域で安心して暮らしていくために協力できる地域活動 - 65歳以上の方の同居の有無別]



・65歳以上の方の同居の有無別にみると、「ひとり暮らしの高齢者の話し相手ボランティア」では65歳以上の方が同居していない世帯の方が同居している世帯より6.3ポイント高くなっている。

[高齢者が地域で安心して暮らしていくために協力できる地域活動 - ライフステージ別]

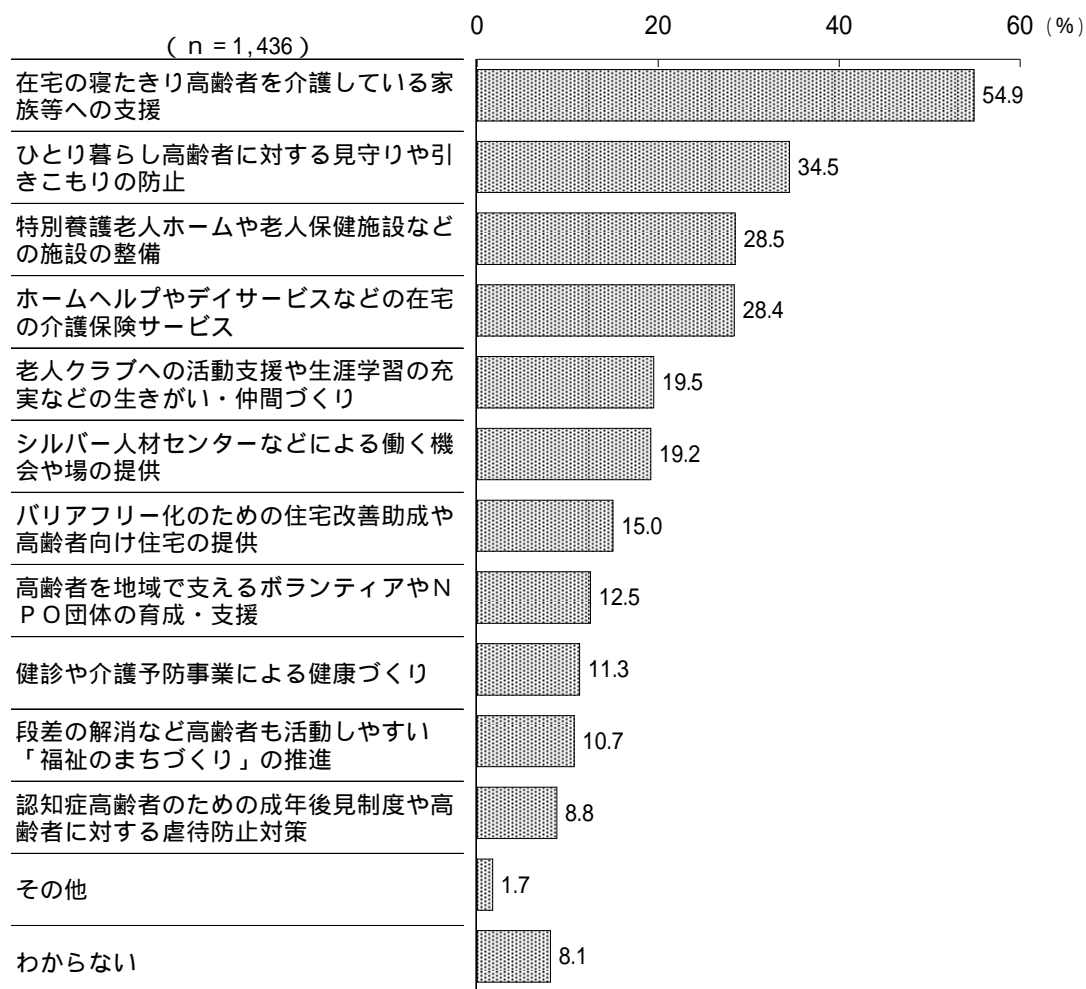


・ライフステージ別にみると、「高齢者への見守りや声かけ活動」では家族成熟期で6割近くと高くなっている。また、「ひとり暮らしの高齢者の話し相手ボランティア」では家族成長後期と家族成熟期で3割、「高齢者のいきがいつくりへの支援」では家族成熟期で3割近くとなっている。

(9) 高齢者支援のために優先して取り組むべき施策

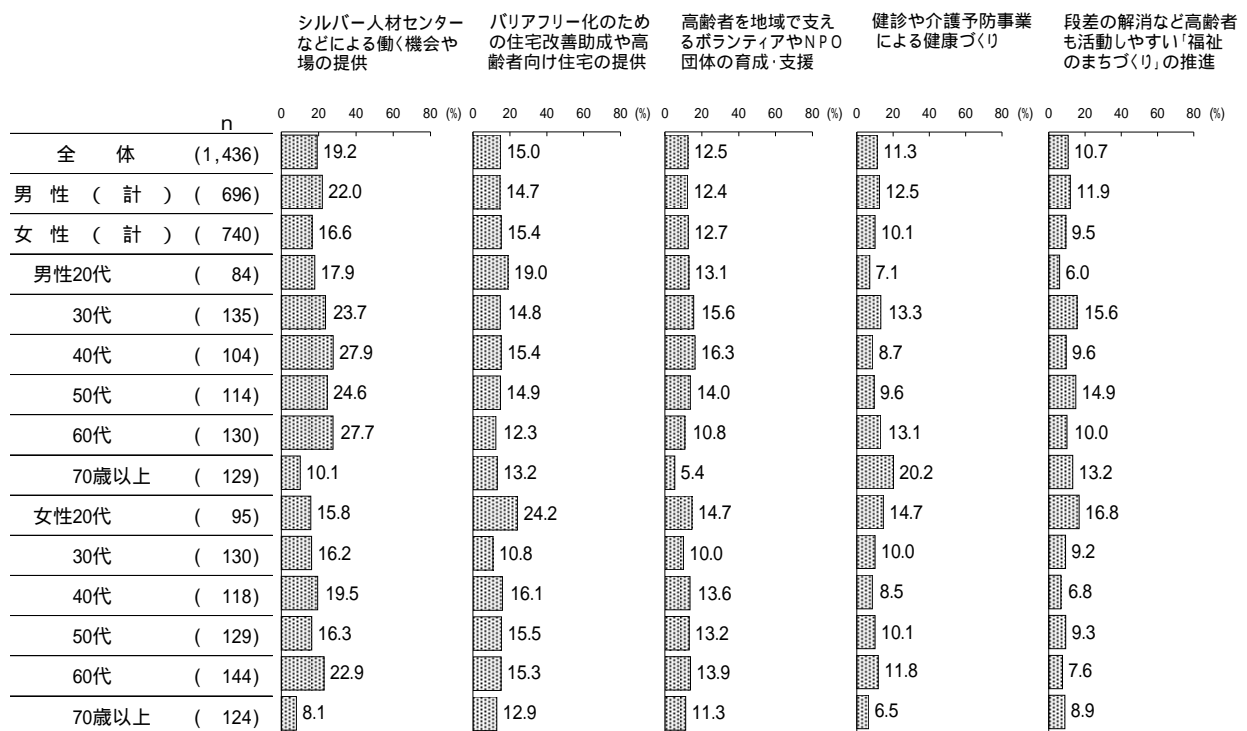
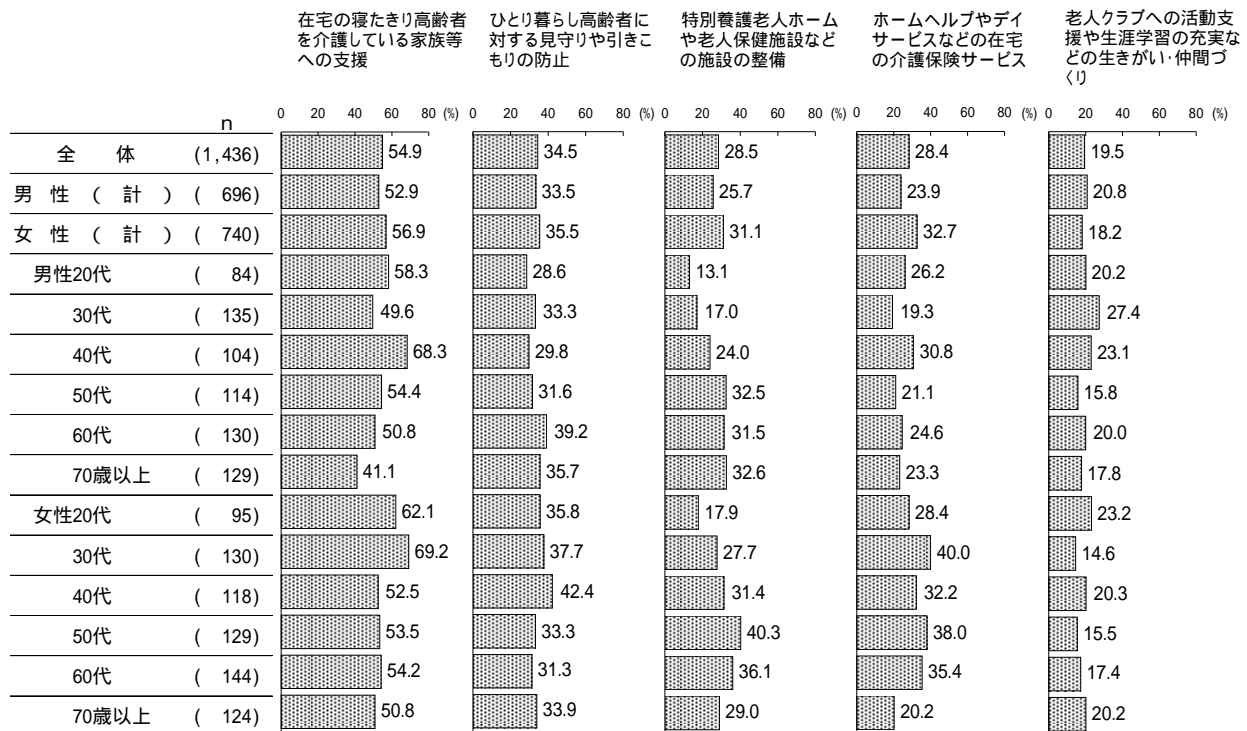
(全員の方に)

問11 . 高齢者の方が住みなれた地域で安心して暮らしていくために、特に必要だと思う施策は何ですか。(3つまで)



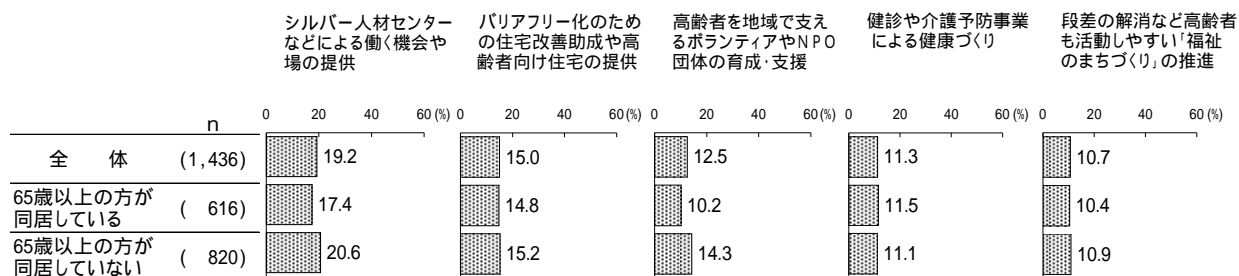
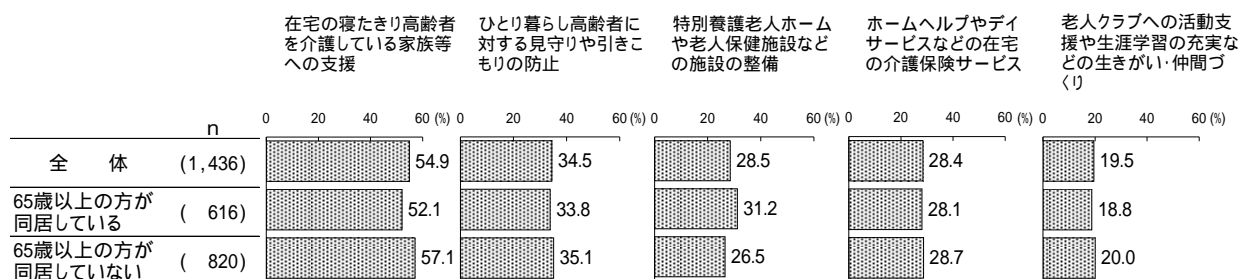
- ・全体で見ると、「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」(54.9%) が5割半ばと最も高く、次いで「ひとり暮らし高齢者に対する見守りや引きこもりの防止」(34.5%)、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設の整備」(28.5%)、「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅の介護保険サービス」(28.4%) などの順となっている。

[高齢者支援のために優先して取り組むべき施策 - 性 / 年代別 (上位 10 項目)]



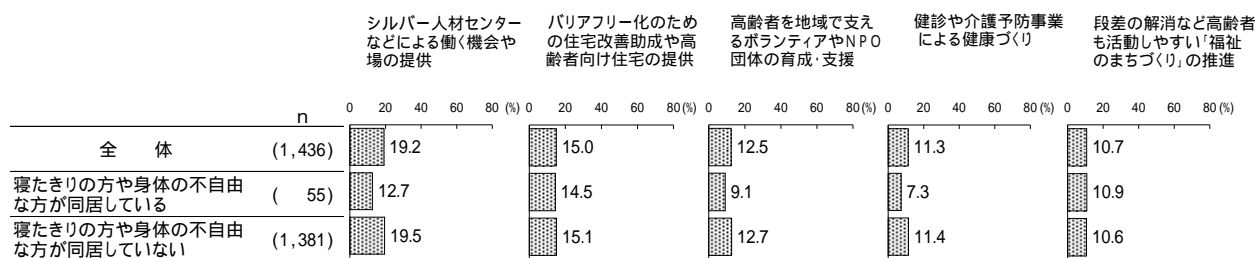
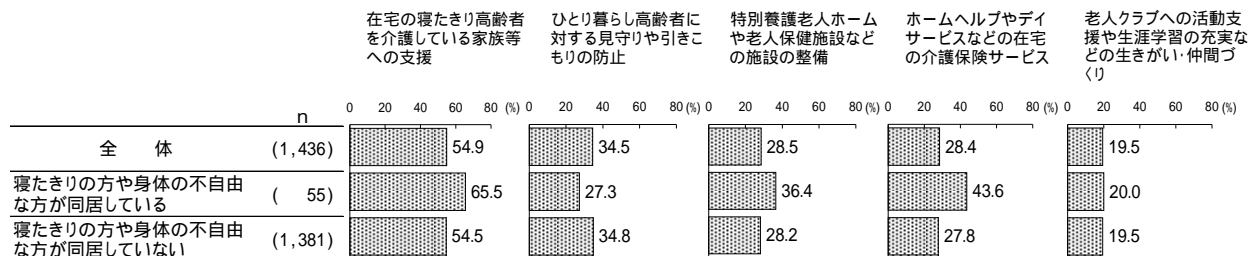
- ・性別にみると、「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅の介護保険サービス」では女性が男性より 8.8 ポイント高くなっている。
- ・性 / 年代別にみると、「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」では男性 40 代と女性 30 代で 7 割近くと高く、「ひとり暮らし高齢者に対する見守りや引きこもりの防止」では女性 40 代で 4 割を超えている。また、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設の整備」では女性 50 代で 4 割、「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅の介護保険サービス」では女性 30 代で 4 割と他の年代と比べて高くなっている。

[高齢者支援のために優先して取り組むべき施策 - 65歳以上の方の同居の有無別 (上位10項目)]



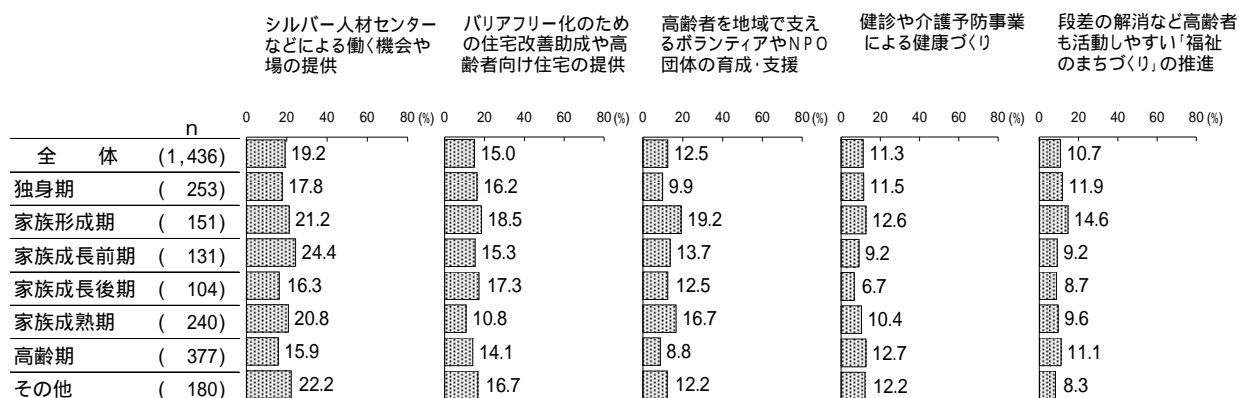
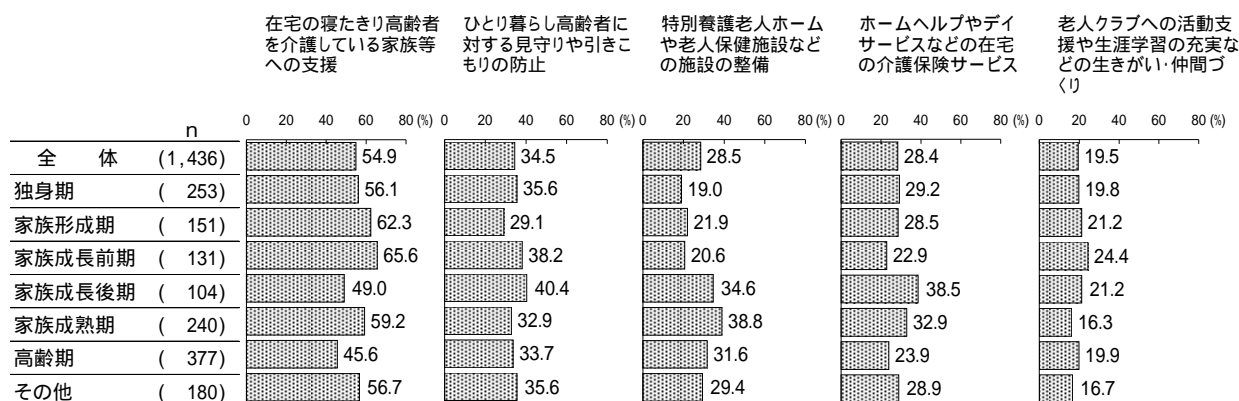
・65歳以上の方の同居の有無別にみると、「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」では65歳以上の方が同居していない世帯の方が、同居している世帯と比べて5.0ポイント高くなっている。

[高齢者支援のために優先して取り組むべき施策 - 寝たきりの方や身体の不自由な方の同居の有無別]



・寝たきりの方や身体の不自由な方の同居の有無別にみると、「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」では寝たきりの方や身体の不自由な方が同居している世帯で6割半ばとなっている。

[高齢者支援のために優先して取り組むべき施策 - ライフステージ別]



- ・ ライフステージ別にみると、「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」では家族成長前期で6割半ば、「ひとり暮らし高齢者に対する見守りや引きこもりの防止」では家族成長前期と家族成長後期で4割前後となっている。また、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設の整備」では家族成熟期で4割近くと他の年代と比べて高くなっている。